

年
2006
まほろん



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館

報



まほろんイベント鉄づくり（11月5日）



完成したいわき市中田横穴出土鞍・尻繫

年報 2006 の発刊によせて

館 長 藤 本 強

平成 17 年度の年報をお届けします。まほろん年報の 6 号になります。その年のまほろんの活動記録を収めていくのがこの年報の役割です。それが回数を重ね、6 号になりました。少しずつ成長をして、まほろんは、幼年期を脱し、少年期を迎えたことになります。

平成 17 年度もいろいろなことがありました。その中で鉄づくりは、いちばん大きな出来事であったといえましょう。平成 15 年度の鉄づくりについて 2 回目の鉄づくりです。遺跡でみつかった製鉄炉と同じ大きさの製鉄炉を復元しての鉄づくりです。前回の炉のほぼ 2 倍の大きさの炉です。準備作業の段階から多くの人たちが参加し、鉄づくりの実際に触れました。鉄づくりの日は、幸い好天に恵まれ、多くの人に踏みふいごを踏んでもらいました。途中炉内の温度が上がらないので、ふいごを懸命に踏んだところ、送風弁が破損するなどのハプニングはあったものの、最終的には 49kg の鉄を得ることができました。多くの人々が一つの目的に力を合わせた感動もありました。

日常的な体験学習に加え、餅つき大会、双六大会、毬杖大会なども開催し、冬にも多くの人々にまほろんに足を運んでもらいました。種々の体験プログラムをもって出前学習をする「おでかけまほろん」も充実させ、県内の多くのところに出かけ、好評を博しています。企画展関係では、「ふくしまの重要文化財Ⅳ」として考古資料：古墳時代後期の金工品と「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その 1」を展示しました。

研究復元事業では、いわき市中田横穴出土の馬具類の復元を試みました。研究復元をしようとする多くの課題が浮かび上がります。可能性の高い方法で実際に復元製作をしています。そこから多くの研究視点が出てくるという効果も忘れてはならないことです。状況が悪化しても、これからも続けていくことがまほろんのあるべき姿だと考えています。

ボランティア活動も順調に推移しました。主催事業として「古代の横笛、コンサート」を行い、江平遺跡出土の横笛にちなんだコンサートを開きました。このほか、まほろん開館 4 周年を記念して恒例になっているイベントを開催しています。

平成 18 年度から導入される「指定管理者制度」をめぐる、大きな不安とその応募のための書類作りに忙殺された年でもありました。幸い引き続きまほろんの運営と管理をすることにはなりましたが、つぎの機会はすぐにやってきます。

目次

第1章 まほろんの沿革……………	1	8 ボランティア運営事業……………	23
1 開館までのあゆみ……………	1	(1) 登録……………	23
2 開館後のあゆみ……………	1	(2) 活動内容……………	23
第2章 平成17年度の組織と予算……………	2	(3) 受け入れ体制……………	24
1 組織……………	2	(4) ボランティア研修……………	24
2 予算……………	2	(5) ボランティア主催イベント……………	24
第3章 平成17年度事業の概要……………	3	白河館ボランティア登録要項……………	24
1 管理運営……………	3	第4章 平成17年度入館者統計……………	26
(1) 運営協議会……………	3	1 入館者数……………	26
(2) 出版物……………	3	2 入館者数の推移……………	27
2 資料管理事業……………	4	第5章 まほろん施設の概要……………	28
(1) 収蔵資料……………	4	第6章 まほろんの条例・規則……………	30
(2) 資料貸し出し……………	4	1 福島県文化財センター白河館条例……………	30
(3) 写真等掲載承認……………	4	2 福島県文化財センター白河館条例施行規則……………	30
(4) 資料閲覧……………	5	まほろんの利用案内……………	31
3 情報発信及び普及事業……………	6		
(1) ホームページによる情報発信……………	6		
(2) データベースによる情報提供……………	6		
(3) 研究紀要……………	6		
(4) まほろん通信……………	7		
(5) 館長講演会……………	7		
(6) 文化財講座……………	7		
4 研修事業……………	8		
(1) 研修事業実施の概要……………	8		
(2) 実績……………	8		
(3) 研修実施状況……………	8		
(4) 文化財研修の問題点……………	10		
5 体験学習事業……………	11		
(1) 常時体験型……………	12		
(2) 募集型……………	12		
(3) 館外体験学習支援事業……………	13		
6 常設展事業……………	14		
(1) 構成……………	14		
(2) 展示替え……………	14		
(3) 展示資料の破損等……………	15		
(4) メンテナンス……………	16		
7 企画展事業……………	17		
(1) まほろん秋のてんじ……………	17		
(2) まほろん春のてんじ……………	19		
(3) 研究復元事業……………	21		

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成9年度

基本設計

平成10年度

実施設計・用地取得・造成工事

平成11年度

造成工事・建築工事

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成12年3月

シンボルマーク・ロゴマークの決定

平成12年度

建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年度

屋内展示工事

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団にT管理運営委託

<略年表>

94年度 福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

96年度「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

97年8月 基本設計（～98年3月）

98年5月 実施設計（～99年3月）

99年8月 着工

00年10月 竣工

01年3月 環境整備工事完了

01年6月 展示工事完了

01年7月 開館

工期 着工 99年7月12日

完成 00年10月16日

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成13年8月5日

開館記念イベント「まるごと体験 まほろん」開催

平成13年8月17日 入館者1万人到達

平成14年1月26日 入館者3万人到達

平成14年7月21日

開館1周年記念イベント「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」開催

平成15年7月20日

開館2周年記念イベント「まほろん2周年だよ！ボランティア2003」開催

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成16年7月24日～8月8日

まほろん移動展「新編陸奥国風土記 巻之三 安積郡」郡山市民文化センター開催

平成16年7月25日

開館3周年記念イベント「まほろん3周年だよ！ボランティア2004」開催

平成16年10月2日～12月5日

平成16年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅲー考古資料 古墳時代・はにわ編ー」開催

平成17年3月12日～5月15日

平成16年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 巻之四 磐城郡」開催

平成17年7月18日

開館4周年記念イベント「まほろん4周年だよ！ボランティア2005」開催

平成17年9月4日 入館者15万人到達

平成17年10月1日～12月4日

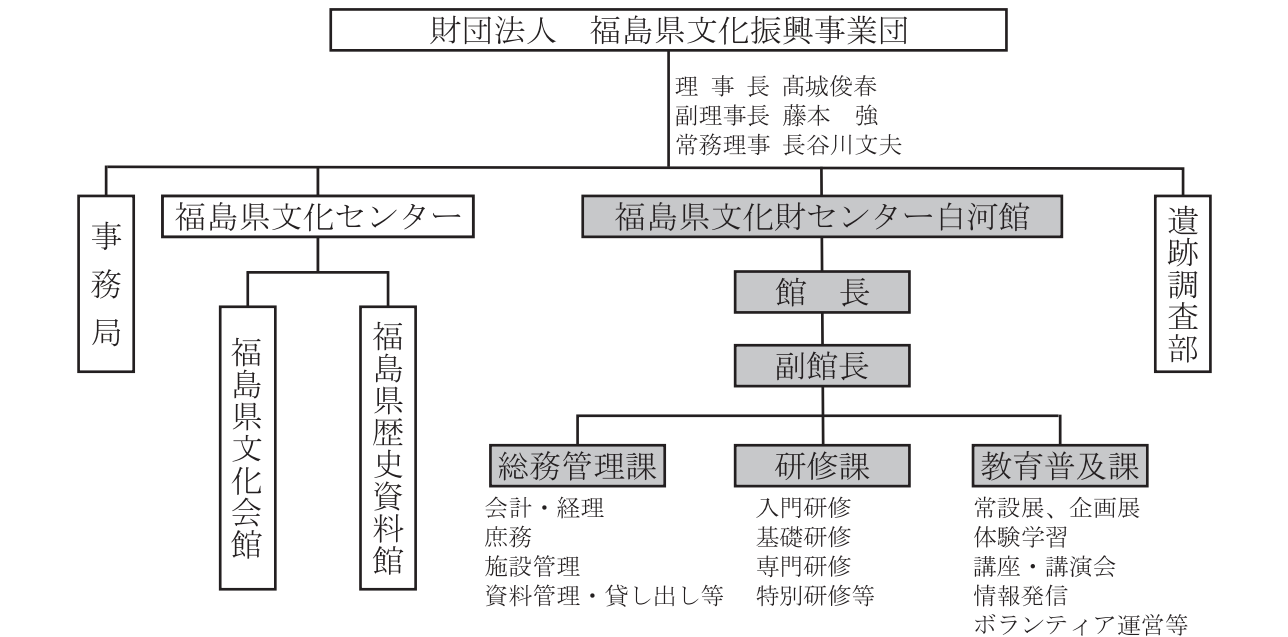
平成17年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅳー考古資料 古墳時代後期の金工品ー」開催

平成18年3月11日～5月14日

平成17年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 巻之五 会津郡・耶麻郡 その一」開催

第2章 平成17年度の組織と予算

1 組 織



職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	藤 本 強	課 長	山 内 幹 夫	課 長	鈴 鹿 良 一
副 館 長	渡 辺 力	専門学芸員	石 本 弘	専門学芸員	田 中 敏
総務管理課	渡 辺 力	専門学芸員	福 島 雅 儀	主任学芸員	吉 田 秀 享
課長 (兼務)	能登谷 宣 康	主任学芸員	五十嵐 敏 裕	主任学芸員	藤 谷 誠
主任学芸員	渡 邊 広 司	副主任学芸員	大河原 勉	主任学芸員	山 口 晋
主 査	渡 邊 広 司			主任学芸員	木 村 直 之
主 事	枝 松 雄 一 郎			副主任学芸員	大 波 紀 子
アテンダント (嘱託) 5 名			臨時事務補助員 2 名		職員数24名
緑 川 千彩子 小 黒 加容子			印 田 さやか		(内訳) 財団職員 11名
甲 賀 寿美恵 (~17年12月) 藤 野 千 恵			影 山 智 香		県派遣職員 6名
岡 田 百合恵 (18年1月~) 佐久間 育 子					臨時的任用 7名

2 予 算

一般会計	特別会計
<収入>	<収入>
・ 受託事業収入 78,336,383 円	・ 事業収入 (物品販売収入) 3,441,040 円
・ 補助金収入 169,259,095 円	・ 雑収入 171,255 円
・ 雑収入 0 円	・ 合計 3,612,295 円
・ 合計 247,595,478 円	<支出>
<支出>	・ 事業費 2,775,384 円
・ 文化財センター白河館管理委託費 78,336,383 円	・ 租税公課費 379,646 円
・ 文化財センター白河館運営補助費 169,259,095 円	・ 合計 3,155,030 円
・ 合計 247,595,478 円	

第3章 平成17年度事業の概要

1 管理運営

(1) 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者等から6名を委嘱している。

名 簿

岡田茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授 前東北歴史博物館長（会長）
渡邊一雄	福島県考古学会顧問（副会長）
福島俊男	西白河小中学校校長連合協議会会長 白河中央中学校校長
和知 延	白河市文化財保護審議会委員 鹿嶋神社宮司
結城光夫	独立行政法人国立少年自然の家国 立那須甲子少年自然の家所長
山崎京美	いわき短期大学教授

会 議

第1回運営協議会

日 時 平成17年8月19日（金）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

- 議 事
- (1) 福島県文化財センター白河館の運営状況について
 - (2) アンケート調査の集計結果について
 - (3) その他



第1回運営協議会のようす

2回運営協議会

日 時 平成18年3月10日（金）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

- 議 事
- (1) 平成17年度福島県文化財センター白河館の運営状況について
 - (2) 平成18年度福島県文化財センター白河館の事業計画について
 - (3) 福島県文化財センター白河館中期計画の点検評価について
 - (4) その他

(2) 出版物

管理運営事業としては、「福島県文化財センター白河館年報2005」を編集し、平成16年度の事業概要をまとめ平成18年3月31日に発行した。他には、研究成果の報告として「福島県文化財センター白河館研究紀要2005」を、また、広報誌として「まほろん通信（VOL.16～VOL.19）」を発行した。



福島県文化財センター白河館年報2005表紙

2 資料管理事業

(1) 収蔵資料

(箱)

	遺物	写真	図面	地図・カード類	合計
一般収蔵庫	39,047	2,531	807	512	42,897
特別収蔵庫	410				410
合計	39,457	2,531	807	512	43,307

- * 1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱
* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

(2) 資料貸し出し

遺物

(点)

貸出期間	貸出先	貸出目的	資料名	数量
20050401～20060331	株式会社日本フットボールヴィレッジ	常設展示	楯葉町美シ森B遺跡出土弥生土器	3
20050401～20060331	福島県立博物館	常設展示	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,025
20050401～20060331	須賀川市立博物館	常設展示	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
20050401～20060331	東北電力株式会社原町火力発電所	常設展示	原町市鳥打沢A遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
20050414～20050601	東北歴史博物館	特別展「古代の旅」	玉川村江平遺跡出土木簡 新地町向田A遺跡出土鍔型ほか	10
20050604～20050806	東北歴史博物館	特別展「音と人の風景」	玉川村江平遺跡出土横笛、新地町向田A遺跡出土鍔型ほか	2
20050707～20050707	須賀川市立小塩江公民館	小塩江長寿学級「小塩江小学校との交流授業」	須賀川市一斗内遺跡出土縄文土器・石器・土製品・石製品	26
20050824～20051108	野馬追の里原町市立博物館	特別展「発掘された古代の行方と新市の誕生」	原町市長静遺跡出土土師器、泉崎村関和久遺跡出土土師器ほか	19
20051026～20051108	玉川村教育委員会	玉川村合併50周年記念「玉川の遺物展」	玉川村栗木内遺跡出土銅鏡、矢吹町弘法山古墳群出土装身具ほか	19
20060224～20060616	福島県立博物館	企画展「馬と人との年代記～大陸から日本、そして福島へ～」	白河市筑内古墳群出土土馬具、いわき市大森田遺跡出土木製鏡	29
合計				1,158

模型及びレプリカ

(点)

貸出期間	貸出先	貸出目的	資料名	数量
20050414～20050601	東北歴史博物館	特別展「古代の旅」	白河軍団兵士復元模型2体、弩(復元品)ほか	7
20050604～20050806	東北歴史博物館	特別展「音と人の風景」	新地町向田A遺跡出土鍔型から復元した鉄製梵鐘ほか	2
20050708～20050924	栃木県立博物館	企画展「とちぎの歴史街道～みちの世界～」	多賀城へ向かう白河軍団兵士復元模型	1
20050920～20051210	須賀川市立博物館	合併記念展「岩瀬の文化財」	跡見塚古墳群出土土銀象嵌鍔(復元品)ほか	2
20050907～20051207	いわき市教育委員会	八幡横穴等出土遺物の貸出遺物の代わりに展示	八幡横穴出土土心葉文象嵌鍔(復元品)ほか	2
20051020～20060310	多賀城市教育委員会	企画展「よみがえる縄文の美～縄文人のファッションとアクセサリー～」	丸木弓(復元品)・矢(復元品)ほか	14
20051214～20060315	四日市市立博物館	特別展「聖武東遊一騎馬軍団東へ～」	白河市筑内古墳群出土直刀(復元品)ほか	7
合計				35

(3) 写真等掲載承認

(点)

承認日	申請者	掲載刊行物等	資料名	数量
20050429	個人	「ふくしまの遺跡」	須賀川市一斗内遺跡遺物出土状況写真	1
20050514	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史1 原始・古代」	弓を射る白河軍団兵士復元模型写真	1
20050531	東北歴史博物館	特別展「音と人の風景」図録	玉川村江平遺跡出土横笛写真ほか	4
20050606	共同通信仙台支社	福井新聞・秋田魁新報・山梨日日新聞・奈良新聞紙上「蝦夷」	弓を射る白河軍団兵士復元模型写真	1
20050612	原町市教育委員会	「はらまちの文化財探訪」	復元した踏みふいご付箱形炉写真ほか	2
20050615	株式会社インテリジェント・リンク	「日本遺跡歩きガイド 北海道・東北編」	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真ほか	3
20050623	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史1 原始・古代」	弥生時代の石器(復元品)写真	1
20050706	アーク・オフィス	RfCラジオ福島 食べる・観る・遊ぶRecreation Book「どこいく兵衛」	ホームページ掲載「シャボン玉づくり」写真ほか	2
20050706	富岡町教育委員会	企画展「とみおかの鉄」図録	常設展示「鉄づくりジオラマ」写真ほか	3
20050708	栃木県立博物館	企画展「とちぎの歴史街道～みちの世界～」図録	多賀城へ向かう白河軍団兵士復元模型写真	1
20050717	株式会社新泉社	飯村均著「律令国家の対蝦夷政策 相馬の製鉄遺跡群」	新地町向田E遺跡全景写真ほか	51
20050802	東京カートグラフィック株式会社	「古地理に関する調査―古地理で探る阿賀・千曲の変遷―」	ホームページ掲載の柳津町石生前遺跡出土縄文土器	1
20050804	野馬追の里原町市立博物館	「発掘された古代の行方と新市の誕生」	泉崎村関和久遺跡出土墨書土器写真ほか	18
20050804	西郷村教育委員会	「ふるさと教室(歴史講座)」説明資料	西郷村道南遺跡スライド	538
20050824	クラブツーリズム(株)多摩旅行センター	パンフレット「ゆったり楽旅くらぶ」	ホームページ掲載のいわき市白水阿弥陀堂境域写真	1
20050824	須賀川市教育委員会	合併記念展「岩瀬の文化財」ポスター等	須賀川市跡見塚古墳出土土銀象嵌鍔(復元品)写真	1
20050827	京都府埋蔵文化財研究会	「第13回 京都府埋蔵文化財研究集会資料集」	ホームページ中の「文化財データベース」のページほか	2
20050902	月館町教育委員会	「月館町史 資料編I 考古・古代・中世」	飯館村松ヶ平A遺跡遠景写真ほか	29
20050921	株式会社新泉社	飯村均著「律令国家の対蝦夷政策 相馬の製鉄遺跡群」	常設展示「鉄づくりジオラマ」写真ほか	8
20051013	四日市市立博物館	企画展「聖武東遊一騎馬軍団東へ～」図録	東村筑内古墳群6・26号横穴墓出土直刀(復元品)写真ほか	6
20051018	福島県県政広報グループ	福島県ホームページ	まほろん屋外展示「奈良時代の正倉」写真	1
20051021	文部科学省特定領域研究	『中世考古学の総合的研究』『全国中高生歴史サミット2006～みんなで探る中世の城と町～』ポスター・チラシ	まほろん屋外展示「室町時代の館」写真	1
20051030	柏崎市教育委員会	柏崎市軽井川南遺跡群ビデオ	「古代の製鉄遺跡を探る」柏崎市・軽井川南遺跡群「まほろんイベント」(鉄づくり2005)の様子ほか	3
20051108	福島県立博物館	「博物館だより79号」	復元された筑内37号横穴墓の馬具写真	1

20051201	(株)新人物往来社	月刊「歴史読本」2006年2月号 ホームページ掲載	「体験発掘ツアー」写真	1
20051201	ミュージアムマガジンDOME	「ミュージアムマガジンDOME83号」	まほろん外観写真ほか	3
20051210	明治図書出版株式会社	中学生用教材「国語の学習」光村図書版3年	弓を射る白河軍団兵士復元模型写真	1
20051223	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史2 中世」	まほろん屋外展示「室町時代の館」写真ほか	2
20060106	埼玉県立さきたま資料館	「埼玉のまほろばさきたま〜考古学が解く食のわざ〜」展示パネル	「縄文時代の食卓」写真	1
20060111	福島県立博物館	企画展「馬と人との年代記」図録	白河市筑内古墳群37号横穴墓出土馬具写真ほか	29
20060112	個人	「白河郡街と周辺遺跡群」(株)同成社	泉崎村関和久遺跡掘立柱建物跡写真ほか	5
20060119	石川町教育委員会	「石川町史 第3巻 資料編1 考古・古代・中世」	玉川村江平遺跡出土木簡写真	1
20060127	宮崎県総合博物館	企画展「武器の歴史と赤羽刀の美」パネル	多賀城に向かう白河軍団兵士復元模型写真ほか	2
20060208	福島県立博物館	企画展「馬と人との年代記」図録・パネル	白河市筑内古墳群37号横穴墓全景写真ほか	4
20060208	小山市立博物館	企画展「装飾された優雅な土器たち」図録・パネル	会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器	7
20060215	広野町教育委員会	「広野町史 通史編」まほろん屋外展示	「奈良時代の正倉」写真ほか	2
20060217	歴史春秋出版株式会社	「歴春ふくしま文庫49 ふくしまの曙」	三春町柴原A遺跡2号敷石住居跡全景写真ほか	12
20060301	株式会社学習研究社	「ニューワイドずかん百科 日本の歴史」	「古墳時代の食卓」写真ほか	5
20060303	白河市教育委員会	筑内4号墳(復元)説明板	白河市筑内古墳群航空写真ほか	2
20060308	個人	「坂東の風雲児 ぼくらの将門」坂東市	常設展示「奈良・平安時代のかまど」写真	1
20060316	株式会社同成社	鈴木功著「白河郡街遺跡群」	泉崎村関和久遺跡掘立柱建物跡写真ほか	5
20060317	白河市教育委員会	「大信村史 第一巻 通史編」	白河市下原遺跡出土土師器写真ほか	18
20060319	福島テレビ	「Lばんスーパーニュース」(3月21日放送)	玉川村江平遺跡出土横笛・木簡	2
合 計				783

(4) 資料閲覧

遺 物

(点)

閲覧日	閲 覧 者	閲 覧 目 的	資 料 名	数量
20050425	個人	論文作成の資料調査	飯舘村羽白D遺跡出土炭化粟ほか	5
20050609	国立歴史民俗博物館職員	土器付着炭化物による放射性炭素同位体比測定を行うための資料調査	会津高田町下ヶ地平C遺跡ほか出土縄文土器	48
20050611	福島県立博物館職員	企画展に係る資料調査	相馬市大森A遺跡出土馬鐙ほか	31
20050622	個人	個人研究の資料調査	泉崎村関和久上町遺跡出土遺物	32
20050705	日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会	日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウムに係る資料調査	飯舘村上ノ台A遺跡出土縄文土器、猪苗代町北向遺跡出土縄文土器	1,383
20050716	個人	個人研究の資料調査	玉川村江平遺跡出土土師器ほか	45
20050728	日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会	日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウムに係る資料調査	猪苗代町法正尻遺跡ほか出土縄文土器	41
20050806	一関市博物館職員	自館調査活動	福島市孫六橋遺跡出土弥生土器	155
20050809	須賀川市立博物館職員	企画展に係る資料調査	須賀川市跡見塚古墳出土銀象嵌銅(復元品)	1
20050817	個人	個人研究の資料調査	玉川村江平遺跡出土横笛・箆	3
20050906	小山市立博物館職員	企画展に係る資料調査	会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器	65
20051002	地底の森ミュージアム友の会	研修会	白河市一里段A遺跡ほか出土旧石器	268
20050910	個人	竹笛の研究復元製作に係る資料調査	玉川村江平遺跡出土横笛	1
20050921	玉川村文化財保護審議会	企画展に係る資料調査	玉川村栗木内遺跡出土銅鏡ほか	19
20051006	個人	修士論文作成の資料調査	石川町七郎内C遺跡出土琥珀玉	46
20051025	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団職員	調査報告書作成の資料調査	福島市獅子内遺跡ほか出土縄文土器	1,432
20051102	国立科学博物館職員	展示に係る資料調査	三春町柴原A遺跡ほか出土縄文土器	14
20051102	国立歴史民俗博物館職員	個人研究の資料調査	猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	31
20051130	個人	博士論文作成の資料調査	須賀川市大久保A遺跡ほか出土玉類	1,016
20051201	個人	個人研究の資料調査	飯舘村松ヶ平A遺跡ほか出土縄文土器	298
20051211	個人	個人研究の資料調査	矢吹町弘法山古墳群出土鉄刀ほか	18
20060111	青森県埋蔵文化財調査センター職員	調査報告書作成の資料調査	猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	298
20060131	個人	個人研究の資料調査	白河市筑内古墳群ほか出土青銅製品	5
合 計				5,550

その他

(点)

閲覧日	閲 覧 者	閲 覧 目 的	資 料 名	数量
20050622	個人	個人研究の資料調査	泉崎村関和久上町遺跡記録図面	40
20051018	個人	個人研究の資料調査	「小峰城跡」ほか調査報告書	7
20060219	遺跡調査部職員	研修資料作成の資料調査	矢吹町赤沢B遺跡スライド	22
20060328	明治大学博物館職員	企画展に係る資料調査	相馬市大森A遺跡水田足跡はぎ取り資料	1
合 計				70

3 情報発信及び普及事業

(1) ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は48,419件で、月平均4,034件となっている。年度ベースでは、昨年度よりも7,668件増加している。

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,327	131,906
5月	3,384	135,290
6月	5,310	140,600
7月	4,357	144,957
8月	5,938	150,895
9月	5,149	156,044
10月	3,659	159,703
11月	3,958	163,661
12月	2,978	166,639
1月	3,179	169,818
2月	3,438	173,256
3月	3,742	176,998

(2) データベースによる情報提供

1) アクセス数の推移

平成17年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は30,917件、月平均アクセス数は2,576件となっており、前年度よりも、2,141件程増加している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
遺跡	863	915	935	1,305	1,879	1,392
遺物	571	470	605	481	581	475
写真	478	271	756	509	579	517
文献	217	206	259	258	502	250
合計	2,129	1,862	2,555	2,553	3,541	2,634
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺跡	1,476	833	572	719	1,121	1,315
遺物	684	653	688	715	726	386
写真	654	522	655	329	460	698
文献	436	288	300	576	597	240
合計	3,250	2,296	2,215	2,339	2,904	2,639

2) データの入力

平成15年度に遺跡調査部の文化財センター整備班で作成されたデータ及び当館で作成している「遺物写真データベース」及び「文献デー

タベース」の入力を行った。

入力数を別表として示した。合計入力数は、14,554件となっている。

種 類	入力数	累 計
遺跡（基本データ）	10	13,711
遺跡（調査台帳）	36	3,570
遺 物	11,156	218,278
遺物写真	1,261	10,072
写 真	1,421	45,017
文 献	670	8,877
合 計	14,554	299,525

(3) 研究紀要

研究紀要目次

ー研究論考ー

- ・平安時代の鉄製製品（吉田秀享）
- ・出土鋳型からのシリコン製の製品の復元及び市川橋遺跡出土獣脚のX線分析顕微鏡による分析結果について（奥山誠義）
- ・獣脚付き容器2種と風鐸2種の復元（浜田善玲・鈴木勉）
- ・出土鋳型からの鉄製梵鐘の復元（鈴木勉・浜田善玲）
- ・鉄製製品の表面仕上げについて（鈴木勉）



研究紀要 2005 表紙

- ・復元鉄鐘の音響特性（大熊恒靖）
- ・相馬地域出土鋳型から復元した鉄器類の鋳造実験と組織観察（佐藤健二）

（4） まほろん通信

4月15日、7月1日、10月15日、1月15日の4回、5,000部を発行した。概要は以下となっている。

1） まほろん通信 VOL.16（4月15日発行）

- ・天平の横笛、ふくしまの横笛（表紙）
- ・体験学習（古銭づくり・毬杖大会）
- ・研修課より（4～6月文化財研修のご案内）
- ・総務管理課より（平成16年度は入館者31,000人）
- ・今年度の行事予定

2） まほろん通信 VOL.17（7月1日発行）

- ・体験学習支援研修2「土器の野焼き」（表紙）
- ・体験学習（土笛・土鈴づくり、釣針づくり）
- ・ボランティアイベントのお知らせ
- ・まほろん移動展（新編陸奥国風土記）
- ・シリーズ復元展示（鉄製品の仕上げその1）
- ・研修課より（7～9月文化財研修のご案内）
- ・総務管理課より（土器復元・修復作業）

3） まほろん通信 VOL.18（10月15日発行）

- ・おでかけまほろん中間報告（表紙）

- ・体験学習（体験発掘ツアー、土器の野焼き）
- ・まほろん秋のてんじ（ふくしまの重要文化財IV—考古資料：古墳時代後期の金工品—）
- ・シリーズ復元展示（鉄製品の仕上げその1）
- ・研修課より（10～12月文化財研修のご案内）
- ・総務管理課より（人気の軍団兵士模型）
- 4） まほろん通信 VOL.19（1月15日発行）
- ・「まほろん森の塾」第五期生の活躍（表紙）
- ・鉄づくりイベント報告その1
- ・春のてんじ案内（新編陸奥国風土記一巻之五会津郡・耶麻郡その1—）
- ・研修課より（1～3月文化財研修のご案内）
- ・総務管理課より（バックヤードツアー③）

（5） 館長講演会

平成17年度は、「考古学から見た”都市”」をテーマとして、年に6回の講演会を実施した。各回ごとの内容と参加人数は下記の通りである。

- ・第1回（4月23日）「都市のはじまり—西アジア—」参加人数26名
- ・第2回（5月28日）「都市のひろがり—北アフリカ、南アジア、ヨーロッパ—」参加人数21名
- ・第3回（6月25日）「ローマ帝国の都市」参加人数31名
- ・第4回（10月29日）「都市と都城—西の都市、東の都城—」参加人数17名
- ・第5回（11月26日）「中国の都城」参加人数21名
- ・第6回（12月17日）「日本の都市と都城」参加人数30名

（6） 文化財講座

当事業団の職員がかつて発掘調査した遺跡を取り上げるシリーズで以下の2回を実施した。

- ・第1回「私が掘ったあの遺跡—県中—」
日時 2月18日
講師 山内幹夫研修課長
参加者8名
- ・第2回「私が掘ったあの遺跡—会津—」
日時 3月18日
講師 藤谷誠主任学芸員
参加者24名



「まほろん森の塾」第五期生の活躍

「まほろん森の塾」とは、年間を通じて昔の生活全般について広く体験しようという、まほろん最大の連続体験講座です。雨に悩まされた暮先の「古代米の田植え」に始まり、「縄文時代の櫛作り」や「石器づくり」、畑に恵かれながらもがんばって料理した「春のお泊り会」など、原始や古代の生活を広く体験してきました。塾生たちの上達は早く、本物と見まちがうような石器や土器も作れるようになりました。しかし今回の第五期塾生の本陣は、そんなところにはなかったのです。始まったころには「誰かにやってもらえばいいや」と、自分の仕事をぼっぽりかして遊びにいった塾生もいました。しかし、夏の「ボランティアイベント」のお手伝いあたりから、それが見事に見られなくなったのです。その日、塾生たちは分組時間を守り、声を掛け合い、来館者に完璧な応対をしました。お客さんの「ありがとう」の一言に聴かれた面もあったようです。塾生たちは、確実に変わりました。それが実を結んだのが、秋の古代米の大豊作だったといえるでしょう。泥だらけになりながら田んぼの雑草とりをしていた塾生、照々と古代食の材料を切っていた塾生、みんなの後片付けをこっそりしてくれていた塾生、いろんな塾生がいましたが、合言葉はみんな「責任と協力」。そんな一年間でした。



まほろん通信 VOL19 表紙

4 研修事業

(1) 研修事業実施の概要

入門研修 3 回、基礎研修 4 回、専門研修 6 回、特別研修 10 回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を 14 回、職員派遣研修を 12 回実施している。研修を実施した日数は延べ 58 日、研修の参加者は 479 人である。

(2) 実績

受講者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員は、161 人で全体の 33.9% 占めている。前年度より 14 人ほど多くなっている。次に多かったのが一般人で 138 人参加し、全体の 28.8% である。文化財関係の市民ボランティアの 120 人で 22.4% を占めている。で、教職員の参加者は 71 人で 14.9% となっている。

(3) 研修実施状況

1) 入門研修

入門考古学講座は、6 月に「福島県の原始・古代」をテーマにまほろんで 1 回開催し、2 回目は 12 月に「稲古館古墳刀と正倉院の鉄刀」

と題して宮内庁正倉院事務所の西川明彦氏に講演をいただいた。開催場所を須賀川市文化センターとし公開講座とした。参加者は 2 回の研修で 156 名だった。埋蔵文化財事務研修はまほろん館内で実施した。福島県文化振興事業団遺跡調査部の齋藤幹夫氏と本間宏氏に、「発掘調査の安全衛生管理」と「埋蔵文化財の公開と活用」について福島県教育庁生涯学習領域文化財グループの佐藤耕三氏には「文化財保護にともなう事務」について講義いただいた。受講者は 3 名だった。

2) 基礎研修

考古学と関連科学研修は、国立歴史民俗博物館助教授の永嶋正春氏に「古代漆塗遺物研究の現状」をテーマに講義いただき、9 名が受講した。土器復元研修はいわき市教育文化事業団理事の松本友之氏を講師に土器の修復を実習する講座である。5 名が受講した。報告書デジタル原稿作成研修は会津若松市文化センターでデジタルトレースの実習を主に開催した。実習に加えて本館職員によるデジタル編集のやり方、会津美里町教育委員会の梶原文子氏によるデジタルトレースによる挿図作成の実例も発表していただいた。受講者は 13 名だった。遺構調査技術研修は集落遺跡の調査事例報告の検討を通じ

平成 17 年度文化財研修実施一覧

区分	研修名	内 容	期 間	場 所
入門研修	入門考古学講座Ⅰ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	6月18日	館内
	埋蔵文化財事務研修	埋蔵文化財事務を円滑に行うための研修	6月21日～6月22日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	12月10日	須賀川市
基礎研修	考古学と関連科学	保存処理委託や各種分析委託業務について最新知識を研修する	9月3日	館内
	土器復元研修	破片の接合や欠損部分の補修など土器の修復を学ぶ研修	11月26日～11月27日	館内
	報告書デジタル原稿作成研修	原稿のデジタル化により報告書作成の経費節減と効率化を図る研修	2月24日～2月25日	会津若松市
	遺跡調査技術研修	集落遺跡の調査・記録方法の研修	3月11日	館内
専門研修	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	6月11日	館内
	発掘調査支援システム活用研修	“発掘調査支援システムを用いた効率的な発掘調査を行うための研修”	7月6日～7月7日	小高町
	史跡整備研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	8月26日	郡山市
	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	9月24日	館内
	時代別研究研修	時代別の専門的研修	11月19日～11月20日	館内
特別研修	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の特徴と調査の方法	1月14日～1月15日	館内
	体験学習支援研修 1	土器づくりの指導者を養成する研修	4月29日	館内
	体験学習支援研修 2	土器の野焼きの方法を学ぶ研修	5月29日	館内
	体験学習支援研修 3	古代の編み布体験を教材とする方法を学ぶ研修	7月16日	喜多方市
	教職員発掘調査体験研修	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月3日～8月5日	鹿島町
	博物館学外実習	大学等の依頼によって開講する実習講座	9月13日～9月17日	館内
	体験学習支援研修 4	石包丁を教材とする方法を学ぶ研修	10月8日～10月9日	福島市
	無形の文化財研修Ⅰ	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	10月15日～10月16日	館内
	体験学習支援研修 5	まいぎり製作をとおして古代の火おこし方法を学ぶ研修	12月24日	館内
	無形の文化財研修Ⅱ	県内の民俗芸能について理解を深め、無形の文化財保護に役立てる	2月12日	館内
	体験学習支援研修 6	古代の方法で石に穿孔し、装身具の作り方を学ぶ研修	3月4日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
	職員派遣研修	市町村等の要請によって随時、職員を派遣して行う研修	臨時的	館外

て発掘調査技術のレベルアップを図る研修で、まほろんで行い、7名が受講した。

3) 専門研修

専門考古学講座Ⅰは、国立歴史民俗博物館教授の今村峯雄氏をまほろんに迎え、遺跡の年代測定について講義していただいた。28名もの人々が受講した。専門考古学講座Ⅱはまほろん館長が遺跡の調査・保存・復元・展示について講義した。12名が受講した。発掘支援システム活用研修はデジタル測量器具を用いた発掘調査支援システムを使って発掘調査の効率化を図る研修で、小高町四ッ栗遺跡の常磐自動車道遺跡発掘調査現場で実施した。受講者は3名だった。史跡整備研修は、郡山市歴史資料館を開催場所に、郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターの柳沼賢治氏が、同市の史跡大安場古墳の史跡整備について講義した。受講者は12名だった。時代別研究研修は今年は「縄文時代前期土器の研究」を題材に、まほろん収蔵資料を観察しながら25名の受講生が縄文前期の土器の変遷を学んだ、講師は当館職員がつとめた。官衙遺跡研究研修は須賀川市栄町遺跡、会津若松市郡山遺跡、白河市借宿廃寺跡の調査事例を各遺跡の担当者に報告していただき、奈良文化財研究所の山中敏史氏にコメントをいただいた。また、仙台育英学園高校の渡邊泰伸氏に「古代東北地方における瓦様式の変遷」というテーマで講義していただいた。17名が受講した。

4) 特別研修

体験学習支援研修は、今年度は6回行った。1回目は「土器作り」を体験学習に生かす研修で、2回目の「土器の野焼き」とセットである。3回目は縄文時代から行われた「編み布」を体験学習の教材とする研修で、編み布の道具の作り方や編み方を学んだ。4回目は弥生時代の穂摘み具である「石包丁」の作り方をとおして、古代の稲作方法を体験学習に活用する研修である。5回目は「まいぎり」という火おこし道具をとおして昔の発火方法を学ぶ研修である。6回目は「まいぎり」などの道具を使って石に穴を開け、装身具を作り、それを体験学習に活用する研修である。6回の研修で26名が受講した。教職員発掘調査体験研修は教職員や文化財



入門考古学講座Ⅱのようす

保護に関わる人たちに発掘調査を体験してもらう研修である。今年度は鹿島町割田H遺跡の発掘調査現場で13名の受講者が発掘調査を体験した。無形の文化財研修は2度に分けて行った。無形の文化財の県内における現状と課題を福島県教育庁生涯学習領域文化財グループの鏈水実氏、福島県文化振興事業団遺跡調査部の大山孝正氏に講義していただいた。受講者は17名だった。2回目は「白河市根田安珍歌念仏踊」を題材に福島県文化財保護審議会委員の懸田弘訓氏に講義いただくとともに、白河市根田安珍歌念仏踊の保存会の皆様に実演していただいた。受講者は公開講座としたため69名にものぼった。臨時館内研修は13回実施し、49名の人達が受講した。研修内容は遺物の写真撮影研修、土器の観察研修、報告書の作成に関する研修、体験学習に関する事など様々である。職員派遣研修は長沼東小学校における体験学習に関する研修など5回の研修を実施し、13名の人々が受講した。



無形の文化財研修Ⅱのようす

（４）文化財研修の問題点

年間を通して研修を実施した平成 14 年度以降の文化財研修受講者総数は、平成 16 年度が平成 15 年度より減ったものの、平成 17 年度は上昇し、479 名となった。コース別の内訳を見ると、入門研修と特別研修は平成 15 年度まで微増で推移したものが平成 16 年度に急増、専門研修は平成 15 年度以降横ばい、基礎研修は平成 15 年度以降減少している。さらに、職種別研修受講者数の推移を見ると、文化財担当職員数は平成 15 年度以降横ばい、教職員と文化財ボランティアは減少、一般人は平成 17 年度に急増となっている。

文化財研修は、発掘調査等の専門職員が不足している市町村に対する支援を拡充するため、市町村職員の研修を行い専門職員を養成することを目的に始められた事業であるが、基礎コース研修受講者数の減少と、文化財担当職員受講者数の横ばいという現象は、県内における発掘調査件数の減少と、市町村における専門職員採用の手控え、専門職員の基礎的資質向上がほぼ達成したという状況を反映しているものと考えられる。研修を受講する専門職員も毎年ほぼ同様の方々がいくつかの研修を選んで受講されている。県内の文化財担当職員数の増加が見込めないとすると、市町村文化財担当職員の研修受講者数も横ばいか減少の一途をたどる可能性が高くなる。しかし、県内市町村における文化財担当職員の中には、考古学や民俗学の経験が無く、行政職で他の部署から文化財担当へ異動して来た方も多くおり、実はそのような方々に入門コースや基礎コースを受講していただきたいのである。しかし、そのような方々は中々受講されない。理由としては、自治体に差し迫った文化財の課題がないか、あったとしても、他の団体に委託して調査を行うため、その自治体の文化財担当職員が自ら調査を行うことはなく、研修を受講してまで専門資質を向上させる必要がないためではないかと考えられる。ましてや土日の休日に受講したり、平日でも出張扱いで受講するための動機付けには至らないということであろうか。

このような厳しい現実の中で市町村文化財担当職員の受講者数を増やすとすれば、より魅

力ある研修の開発と積極的な広報宣伝を展開して、受講意欲を喚起するしかない。さらに、市町村の文化財行政の現場では、正式職員のみではなく、資料整理員などの臨時職員の方々が多く働いている。かつて資料整理研修で臨時職員の方に研修を実施したり、職員派遣研修で、そのような方を対象に遺物実測の研修を行った事例があるが、基礎コースの諸研修を必要としているのは、実は市町村の臨時職員の方々ではないかと考え、潜在的受講者の研修促進をはたらかけたこともある。実際、入門コースや専門コースの一部の研修を受講された例もあるが、基礎コースにおいては、中々出張して来てまでは受講できないようである。旅費支給等の問題があるものと考えられるが、そのような場合は、職員派遣研修などを活用していただけるよう、今後積極的にはたらきかける必要があるだろう。

文化財研修の主な受講者層としては、他に学校教職員の方々がいる。教職員向けとして体験学習支援研修や教職員発掘調査体験研修などの研修メニューを用意しているが、教職員の受講者数も年々減少している。これは、学校の職務が忙しく、夏休みや冬休み期間中でも、教職員が白河に来てまで研修を受講することができないという現実がある。さらには文化財研修の予定が教職員に十分周知されていないという問題もある。そのために、研修開催のチラシを配布したり、白河市内の小・中学校に出向いて研修の説明を行ったり、体験学習支援研修を県内各地で実施する試みも行ったが、受講者数の大幅確保には至っていない。これについては、夏休みや冬休みなどの期間に教職員がさまざまな研修や研究会に出席しなければならないというスケジュール上の問題もある。今後、県校長会をはじめとして小学校教育研究会や中学校教育研究会などの研修組織を通じた研修予定の周知と広報宣伝の強化や、研修メニューの見直し・開催場所の再検討等を行うことにより対処する必要があるだろう。

以上、平成 17 年度までに行った文化財研修事業の問題点を列挙したが、解決にはさらに困難が伴うものと考えられる。

5 体験学習事業

平成17年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下の通りである。

(1) 常時体験型

1) 個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象とした体験学習メニューである。2週間ごとに、「勾玉・管玉づくり」の他にもう1メニューを加えて複数メニューで実施した。

新たなメニューは実施しなかったが、これまでのメニューを整理し、実技講座やイベントに併せたり、効率よく配置した。なお、実施を送ったメニューは、貝輪づくり、貝絵体験である。

体験活動室実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	1,986人	火おこし	634人
管玉づくり	68人	土器づくり	87人
ガラス玉	235人	土器拓本	73人
クレヨン象嵌	155人	アングン・原始機	69人
ウグイス笛づくり	216人	時代衣装	411人
七夕飾り	53人	石臼	124人
凧づくり	9人	弓矢/やり投げ	1,127人
昔の玩具	163人	ミニ石包丁	159人

2) 臨時個人対応メニュー

長期連休やイベント実施日、小・中学校の夏期休業中に体験活動室のメニューとは別に期間や日数を限定し実施した、個人対応メニューである。実施したメニューは、長期連休やイベント実施日に「石臼できな粉を挽く」、夏期休業中に「弓矢・やり投げ」である。また、イベントで行った体験活動「砂鉄洗い」「羽口づくり」が大変好評であったため、個人対応メニューとして継続して実施した。

3) 団体対応メニュー

事前に予約された団体への体験学習メニューである。メニューは右表の通りである。「土器づくり」「アングン編み」には対応可能な人数に制限を設けていたが、できる限り希望に添う人数で対応を行った。今年度から冬期限定のメニューとして「凧づくり」「毬杖体験」を加え、新メニューの「土器の拓本をとろう」は試行実施した。



アングン編み体験

常時体験活動型メニューでは、「勾玉づくり」の体験者数が圧倒的に多いが、個人対応として、「勾玉づくり」の体験者数の減少傾向が見られる。昨年度加わった「うぐいす笛づくり」は好評で、体験者数が倍増した。また、減少傾向にあった当館の看板メニューである「火おこし」の体験者数が大きく回復した。一方「土器づくり」の体験者数の減少に歯止めがかからない。

臨時個人対応メニューは、期間限定で小・中学校の夏季休業中に実施したため大盛況で、「弓矢・やり投げ」体験は、1,000名を越える体験者であった。今後も実施に向け、創意工夫していきたい。

団体対応メニューでは、「土器さわり」「火おこし」の体験者数が大きく昨年度を上回った。一方、「管玉づくり」「アングン編み」の体験者数は減少傾向にある。

体験者数の集計（複数体験者を含める）では、個人・団体とも昨年度に比べ、体験者数が約2割増加し、来館者数に対する割合が個人で18.3%、団体が41.4%となった。当館の特色である体験し、文化財に触れ、文化財を知り、文化財を学ぶという目的通りと考える。次年度以降も、学校単位や公民館、町内会等での団体来館者数は増加することが予想され、体験者数

団体実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	4,334人	土器拓本	149人
管玉づくり	27人	アングン編み	28人
火おこし	4,562人	毬杖	113人
土器さわり	3,343人	凧づくり	14人
土器づくり	32人		

体験者数内訳合計と来館者数の比率

活動室計	5,572人	活動室比率	18.30%
団体計	12,602人	団体比率	41.40%
体験者合計	18,171人	体験者比率	59.70%
来館者数	30,446人		

の増加も見込まれる。

(2) 募 集 型

1) 実技講座

主として考古資料から昔の技術に触れることを目的として行っている。定員は原則 20 名とし先着順とした。今年度は、前年度よりメニュー数を増やし、月 1 ～数回程度の 16 講座 23 回を開講した。概ね 1 ヶ月前より募集を開始し、年間を通し、8 割前後の人数が集まった。

新規講座の「古代のガラス技術にふれよう」「獣脚ろうそくづくり」「和鏡づくり」は、受講者に好評であった。しかし、技術的な課題も見につき、次年度以降、さらなる技術・方法の改良と向上を目指していきたい。

2) まほろんイベント

① 昔話を聞こう

団体ボランティア「しらかわ語りの会」と当館個人ボランティアの協力を得て実施した。

② 鉄づくり準備「砂鉄洗い」

実技講座実施状況

内 容	実施日	参加者数
1 土器づくり その1	4月17日	8人
2 つり針づくり	4月30日	15人
3 土笛・土鈴づくり	5月4日	25人
4 土器・土笛・土鈴の野焼き	6月4日	32人
5 火打ち金づくり	6月18日	13人
6 カラムシから布をつくろう1	7月9日	24人
7 カラムシから布をつくろう2	7月23日	19人
8 土器づくり その2	7月31日	19人
9 耳飾りづくり	8月6日	13人
10 土器・耳飾り野焼き	8月21日	30人
11 カラムシから布をつくろう3	8月27日	18人
12 竹笛をつくろう	9月18日	14人
13 土器づくり その3	10月1日	6人
14 土器の野焼き	10月29日	25人
15 埴輪づくりその1（円筒埴輪）	11月20日	15人
16 凧づくり	12月3日	17人
17 埴輪づくりその2（形象埴輪）	12月11日	12人
18 土器づくり上級編 その1	1月14・15日	3人
19 古代のガラス技術にふれよう	1月28日	10人
20 土器づくり上級編 その2	2月11・12日	9人
21 獣脚ろうそくづくり	2月25日	14人
22 土器の野焼き上級編	3月11日	22人
23 和鏡づくり	3月25日	12人



実技講座「獣脚ろうそくづくり」

鉄づくりイベントで使用する砂鉄を、傾斜をつけた樋に水を流し、もみ洗いし、比重の違いによって砂と砂鉄に分ける作業を実施した。

③ 体験発掘ツアー

喜多方市の高堂太遺跡で実施した。中世の調査を体験した。

④ 鉄づくり準備「羽口づくり」

鉄づくりイベントで使用する羽口を、心棒に粘土を巻き付け、形を整えて作成した。

⑤ 鉄づくり

古代の遺跡から見つかった製鉄炉から、当時の大きさの製鉄炉を復元し、実験操業を行った。約 3 ヶ月前より、砂鉄の選別、羽口・炉壁ブロックづくり、木炭の小割作業、基礎構造の構築、そして炉の構築、試験操業とまほろんの復元研究の一環でもあった。当日は、老若男女多く方が参加し、踏みふいごを替わり番子に踏み、大盛況であった。砂鉄投入から約 12 時間操業し、翌日に出来上がった鉄を取り出した。出来上がった鉄は 49kg であった。

⑥ 餅つき大会

杵と臼で餅を午前 1 回、午後 1 回ついた。併せて「しらかわ和太鼓クラブ」の皆さんによる勇壮な和太鼓の演奏も行った。また、奈良時代の家では、同時に石臼できな粉を挽く体験も行い、つきたての餅にまぶして食した。

⑦ 双六大会

古代からの盤双六で、まほろんカップ争奪戦として、予選リーグ及び決勝トーナメントを行い、優勝カップを目指した。

⑧ 毬杖大会



鉄づくりのようす

中世まで盛んに行われていた子どものお正月の遊びを、まほろんルールを設け行なった。3人1チームでトーナメント方式で対戦し、まほろん優勝旗を目指した。特製のおしるこもふるまわれ、盛況であった。

3) まほろん森の塾

年間を通し、いにしへの知恵や技術を体験する講座である。今年度は大人の塾生も参加し、縄文時代から古代まで各時代の特色ある体験を実施した。春にはお泊まり会、夏にボランティアイベントへの参加と盛りだくさんとなった。

(3) 館外体験学習支援事業

通称「おでかけまほろん」という事業である。平成17年度は、4～7月の前期に7回、9～11月の中期に6回、12～2月の後期に4回の

おでかけまほろん実施状況

No	団体名	学年・科目	体験内容	実施日	参加者数
1	福島市立平野小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし	4月13日	87人
2	喜多方市立慶徳小学校	6年 社会	土器さわり、火おこし	4月15日	19人
3	郡山市立河内小学校	4～6年 総合学習	土器さわり、火おこし	4月21日	15人
4	郡山市立片平中学校	1年 体験学習	土器さわり、火おこし	4月26日	32人
5	二本松市立二本松北小学校	6年 社会	土器さわり、火おこし	5月11日	99人
6	猪苗代町立千里小学校	6年 社会	土器さわり、火おこし	5月17日	48人
7	新地町立駒ヶ嶺小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし、弓矢	6月22日	24人
8	昭和村立昭和小学校	3～6年 総合学習	土器さわり、火おこし	9月1日	24人
9	川俣町立川俣小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし	9月6日	44人
10	郡山市立御代田小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし	9月8日	36人
11	いわき市立草野中学校	2年 選択社会	弓矢	10月7日	20人
12	国見町立大木戸小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし	9月30日	26人
13	須賀川市立白方小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉、火おこし、弓矢	11月17日	35人
14	鏡石町立第二小学校	4～6年 総合学習	土器さわり、勾玉、火おこし、弓矢	12月13日	105人
15	本宮町立五百川小学校	6年 社会	土器さわり、勾玉	12月14日	78人
16	鹿島町立鹿島小学校	6年 社会	土器さわり、火おこし	12月16日	59人
17	高郷村立高郷第三小学校	1～6年 総合学習	土器さわり、勾玉	2月9日	21人

まほろんイベント実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	昔話を聞こう	5月5日	103人
2	鉄づくり準備（砂鉄洗い）	8月13・14日	128人
3	体験発掘ツアー	9月3日	20人
4	鉄づくり準備（羽口づくり）	9月10・11日	18人
5	鉄づくり	11月5・6日	410人
6	餅つき大会	12月4日	220人
7	第2回双六大会	1月8日	12人
8	第3回毬杖大会	2月8日	18人

まほろん森の塾実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	結団式・田植え	5月7日	12人
2	双六・毬杖を楽しむ	5月14日	12人
3	つり針づくりと春のお泊まり会	6月11・12日	13人
4	石器づくり	7月2日	13人
5	ボランティアイベント参加	7月18日	11人
6	縄文時代の土製品づくり	9月10日	13人
7	田んぼで稲刈り	10月8日	11人
8	秋の収穫祭と解団式	10月29日	12人

計17回を実施した。昨年度より2回増やしたが、さらに回数を増やしていきたい。

実施した体験内容をみると土器さわりは1校を除いた16校で実施、火おこしが13校で実施、勾玉づくりが9校で実施、弓矢体験が4校で実施と、人気の体験の傾向がある程度つかめる。

他には火おこし体験と合わせて土器の復元品で実際に調理を実施した学校もあった。

6 常設展事業

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」
(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示
「ふくしまの文化財
ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成17年度は、以下のコーナーについて展示替え、もしくはトピックス追加を行った。内容及び展示資料については、以下のとおりである。

①遺跡を掘るー話題の遺跡ー

本年度3月19日に、ボランティア主催のイベント「古代の横笛、コンサート」が実施され、非常に好評を得た。イベントの様子はテレビなどの各種メディアで報道され、それ以降、来館者に江平遺跡についての情報を求める声が多く聞かれた。そのため、今までの展示に追加する形で、玉川村江平遺跡についてと、「古代の横笛、コンサート」についての紹介を加えた。なお、白河市谷地前C遺跡27号住居跡の調査成果についても、当館屋外展示での説明材料として優れているため、継続して展示することとし



「古代の横笛、コンサート」の展示パネル
た。(「話題の遺跡」展示替え資料一覧参照)

②みんなの研究ひろば

「長沼東小学校の古代米研究」は、平成16年度中より長沼東小学校6学年生徒によって行なわれてきた。長沼町(現須賀川市)歴史民俗資料館や、近隣の農家とも協力しながら、継続的に取り組まれている、意欲的な総合学習活動である。そのまとめについても、種籾を蒔く段階から収穫に至るまで、記録写真も加えて、非常に体系的にまとめられている。今後、新しい成果があれば追加するような形で、継続的に研究成果を紹介することも考えている。



みんなの研究ひろば

「青木ひかりさんのまほろんガイドブック」については、古代米研究と同様に、白河市立第三小学校の総合学習においての、個人研究である。青木さんは平成17年度の「まほろん森の塾」塾生であり、当館の施設及び職務内容等に興味を持ち、ガイドブックの形で調べ学習の成果を発表した。数回の詳細な取材に基づき、内容についても多彩で、よくまとまったものとなっている。当館にも、中学校以上での職業体験

学習の受け入れの経験があり、今回の内容は、それに対する小学校段階での事前学習として、理想的なもののひとつと考える。また、単にガイドブックとしても、非常に優れている内容であり、紹介のための展示を実施することとした。（「みんなの研究ひろば」展示替え資料一覧参照）

③しらかわ歴史名場面

当館の立地上、白河市内及び近隣市町村の児童生徒の入館者数は多く、その多くが翌年にも来館してもらえる状況となっている。これらの来館者に常設展示の案内を行なううえで、古代白河郡衙関連遺跡についての調査成果を抜きにすることは考えにくい。また、屋外展示の「古代の正倉」の補足説明としても理想的なことから、数点の入れ替えに止め、ほぼそのままの展示内容を維持した。（「しらかわ歴史名場面」展示替え資料一覧参照）

（3） 展示資料の破損等

当館常設展示の最大の特徴は、バリア等による区画を可能な限り避け、観察のしやすさと臨場感を重視していることである。そのため、展示ブース内の手の届く範囲にある復元資料について、来館者による接触で破損することは当然多い。ただし、状況的にみて、意図的に破壊したと思われる例は例年少なく、近くに置いてある展示品に思わず手が伸びて損壊したというような状況が多い。本年度は、破損した場合に修復に手間のかかりやすいジオラマ等に関し、最低限度のバリアを設置し、展示資料に手を触れないよう注意を喚起した。なお、昨年までの例と同じく、展示品の損壊が露見するのは、団体来館者の多い平日ではなく、一般来館者が中心となる休日閉館後であることが多い。また、時期的には春先の年度当初、冬季の閑散期に集中している。

◆めぐみの森

植物造形物のうち、クマザサの折損が10件あった。いずれも導線側の手の届く範囲である。折り取ったクマザサが盗難されることはなく、いずれもブース内に放置されている。

◆暮らしのうつりかわり

各時代のブースで、食物レプリカの接着部分が剥がす損壊があった。破損については、「昭和

40年代」のブースが目立って多い。ブース内が畳敷きになっていることから、高齢の来館者が腰掛けていることなどもしばしばあり、接触しやすい環境にあるようである。展示模型には触れないように表示し、展示品の再配置などにより、破損を避けるよう配慮した。なお昨年と同様に、微細な破損の場合は当館職員が合成ゴム系接着剤で接合し、応急処置を行なった。強度的に不完全なものや、破損のひどいものについては、常設展メンテナンス時に必要に応じて完全に修復した。損壊した展示資料は以下のとおりである。

①昭和40年代…昨年中にグラスごと完全に新規作成したが、ビールの泡部分を大きめに作成



魚肉ソーセージ等の破損状況

したためか、その部分が剥がされ、剥がれた状態になった。今回のメンテナンスにおいて、泡部分のみを新規に作成した。

その際、同様の破損を避けるため、泡部分がグラス上端から大きくはみ出ることのない様に配慮した。また、魚肉ソーセージとキャベツ炒めの接着部分が剥がされ、部品がほぼ完全に分離するところまで破損が進んだ。合成ゴム系の接着剤による修復では強度的に不足し、また欠損部分も多かったため、部品を作成し、現存部品も流用して完全に修復した。茶碗に盛られたご飯については、完全に破損したわけではないが、上面から徐々に米粒がむしり取られたことにより、全体に米粒が少なくなっていたものが1点あり、これもメンテナンスでの修理対象に含めた。また、展示ブースの床材の一部が反りを生じ、剥離していたため、これも修復した。

②江戸時代…かまどと羽釜の接触部分が、一部

剥落した。メンテナンス時に、整形、着色した。
③奈良・平安時代…昭和40年代のご飯と同様に、「豆びしお」の部品がむしり取られ、部品が希薄になっていた。

④古墳時代…蒸しパンがばらばらになっていた。固定できるものについては、接着剤で固定したが、強度的に不十分なため、メンテナンス時に再度接着した。

⑤縄文時代…堅果類の接着が劣化し、籠の中に浮いた状態になっていたため、再度接着した。

◆暮らしをささえた道具たち

製鉄模型の人形が折損されることが数件あった。

◆遺跡を掘る

発掘調査模型人形及び、杭の折損が数件あった。前項の製鉄模型を含め、ジオラマのみについては、什器周辺にバリアを設置し、再発を防

止することとした。

(4) メンテナンス

平成16年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ(株)に委託して行なった。また、AV機器メンテナンスについては、大槻電気通信株式会社に委託し、2回行なった。なお、今年度も予算減額のため展示什器のメンテナンスは実施していない。

①造形物の修復作業…前項(4)に記した損壊のうち、ご飯の盛られた茶碗1点、ビールの入ったグラス1点、魚肉ソーセージとキャベツ炒め1点、豆びしお1点については委託先工場にて修復を行なった。

②映像機器メンテナンス…映像展示用4面マルチビジョン、及び大型ディスプレイの調整を行なった。現在のところ、重大な故障及び不具合の発生はない。

「みんなの研究ひろば」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
平成17年10月22日 ～平成18年3月31日	長沼東小学校の古代米研究	「古代米日記」研究ファイル	1	長沼東小学校 (須賀川市)
		研究ファイルの写し	1	
平成17年11月1日 ～平成18年3月31日	“青木ひかりさんのまほろん ガイドブック”	ガイドブック	2	青木ひかり (白河市)
		ガイドブックの写し	1	

「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
平成18年3月25日 ～平成18年3月31日	“古代の横笛、コンサートー 玉川村江平遺跡の横笛ー”	横笛	1	館蔵
		横笛復元品	2	
		木簡	1	
		解説パネル	2	

「しらかわ歴史名場面」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
平成17年4月1日 ～平成18年3月31日	“エリア泉崎村関和久遺跡 明らかになる白河郡衙”	軒丸瓦・丸瓦	5	館蔵
		軒平瓦・平瓦	3	
		焼けた珉の塊	1	
		円面硯・転用硯	10	
		緑釉陶器・灰釉陶器	11	
		墨書土器	6	
		土師器・須恵器	7	
		手づくね土器	2	

2 企画展事業

(1) まほろん秋のてんじ

「ふくしまの重要文化財Ⅳ

ー考古資料：古墳時代後期の金工品ー」

会期：平成17年10月1日～12月4日

当館では、平成14年度から毎年秋に、県内の重要文化財を紹介する企画展を開催しているが、今回はそのシリーズの第4弾で、県の重要文化財に指定されている古墳時代後期（6・7



展示のようす

世紀)の金工品を展示公開した。

展示構成と内容

1) 中田横穴出土資料

いわき市中田横穴は、1969（昭和44）年に行われた調査で、内部の壁面に、赤と白の顔料で連続三角形文が描かれていることが明らかにされ、大きな注目を浴びた。今回は、横穴の内部から出土した多彩な副葬品を、装身具、武器・武具、馬具に分け、それぞれに概要を記した解説パネルを掲示しながら展示した。また、本



観覧のようす

来の形状を把握することが困難なものについては、類例の図や写真をパネル化して展示した。

2) 八幡横穴群出土資料

いわき市八幡横穴群では、1975（昭和50）年に30基の横穴が調査され、総数7,000点以上におよぶおびただしい数の副葬品が発見された。今回はこのうち、忍冬唐草文を透かし彫りにした金具や、金銅装大刀の鞘金具など、当時の高度な金工技術を物語る資料、約50点を展示した。

3) 真野古墳群A地区20号墳出土資料

南相馬市(旧鹿島町)寺内地内・小池地内には、前方後円墳と円墳で構成される真野古墳群があり、いくつかの古墳が調査されている。今回はそのうち、A地区20号墳(前方後円墳)から出土した金銅製双魚佩を展示した。これは、類例が、奈良県藤ノ木古墳出土例など、全国でも数例しか知られていない、たいへん貴重な資料である。今回は、当館所蔵の復元品もあわせて展示した。

反省点など

解説文の内容をできる限り平易な表現にした



ポスター

つもりだが、さらに噛み砕いた表現も必要だったろうと考える。また、本来の形状がわかりにくい資料がほとんどであるため、写真や復元品を活用してわかりやすい展示を目指したが、不十分であったと思う。運搬費等、予算の問題もあるが、参考実物資料の借用も視野に入れて構成すべきだった。さらに、展示内容として、金工品の技法的な側面もとりあげる必要があったろうと考える。

なお、会期中の入館者動向をみると、前年度同期に比べ、いわき市内からの来館者数、特に団体の人数が増加した。これについては、いわき方面への重点的な広報を行った結果ではないかとも考えられる。

展示資料一覧

1 中田横穴出土資料

資料名	点数
金銅製飾板	1点
管玉	1点
勾玉	10点
棗玉	8点
ガラス玉	2連
銅釧	2点
耳環	2点
鉄製円頭把頭	2点
金銅装鞘尻金具	1点
大刀の把金具	2点
鉄製鉾身	2点
鉄製石突	2点
鉄鏃	10点
刀子	6点
挂甲小札	23点
鞍金具	1式
壺鐙飾板	1式
馬鈴	3点
雲珠	1点
辻金具	7点
飾帯金具	9点
鉸具	7点
杏葉	4点
飾金具	4点
両頭金具	15点
珠文鏡	1点
青銅製容器蓋	1点
砥石	1点
紡錘車	1点
金銅張飾帯金具	1点
冑の伏板	2点
須恵器 提瓶	1点
須恵器 大甕	1点



展示資料（中田横穴出土の馬具）

2 八幡横穴群出土資料

資料名	点数
小玉	2連
管玉	1連
勾玉	2連
切子玉	1連
棗玉	1連
耳環	6点
辻金具	1点
鏡板	1点
象嵌鐔	2点
忍冬文透彫金具	1点
鐔	2点
挂甲小札	10点
冑の伏板	1点
馬鐸	1点
銅釧	1点
鉄鏃	7点
金銅装大刀	3点
鉞尾	1点
輪鐙	2点
やりがんな	1点
鉄斧	1点
象嵌刀身	1点
直刀	1点

3 真野20号墳出土資料

金銅製双魚佩	2点
土師器壺	1点

- 1・2 いわき市教育委員会所蔵
- 3 福島県立博物館所蔵

総 数 188点

(2) まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記 巻之五

会津郡・耶麻郡 その1」

会期:平成18年3月11日(土)～5月14日(日)

1) 趣旨 当館では平成14年より「新編陸奥国風土記」と称し、県内の地域別に収蔵資料品展を開催している。企画展の題名となっている「陸奥国風土記」は、逸文以外には現存しないものであり、考古学の視点から県内各地域の風土を復元しようという意味を込めたものである。今回はそのシリーズ5回目となり、その対象を会津地域とした。当該地域については、東北横断自動車道に係る膨大な量の資料が館内に収蔵されているため、今回及び次回(2)に分けて展示を構成した。今回は、その前半部となり、古代会津郡成立以前の縄文・弥生時代をその対象とし、古代国家体制成立に先立つ会津地方の原始の生活を紹介した。



展示室の外観

2) 内容 今回の展示は対象が縄文～弥生時代であるため、展示室を大きく二分し、前半を縄文時代、後半を弥生時代とした時系列に沿った構成とした。当館に収蔵されている当該時期の資料は膨大な量であり、むしろ資料の並べ過ぎ、または紹介内容が多すぎることに、紹介すべきテーマがぼやけることのないように注意した。そこで、本企画展で共通するテーマを「豊かな自然」と、「人々の交流」に絞り、広範な落葉広葉樹林による豊かな食料供給と、東西南北いずれにも道の通ずる、会津地域の特殊性を強調する内容とした。それぞれのコーナーには1～3遺跡を対応させ、紹介内容も遺跡ごとに多くとも1～3記事に絞り込んだ。

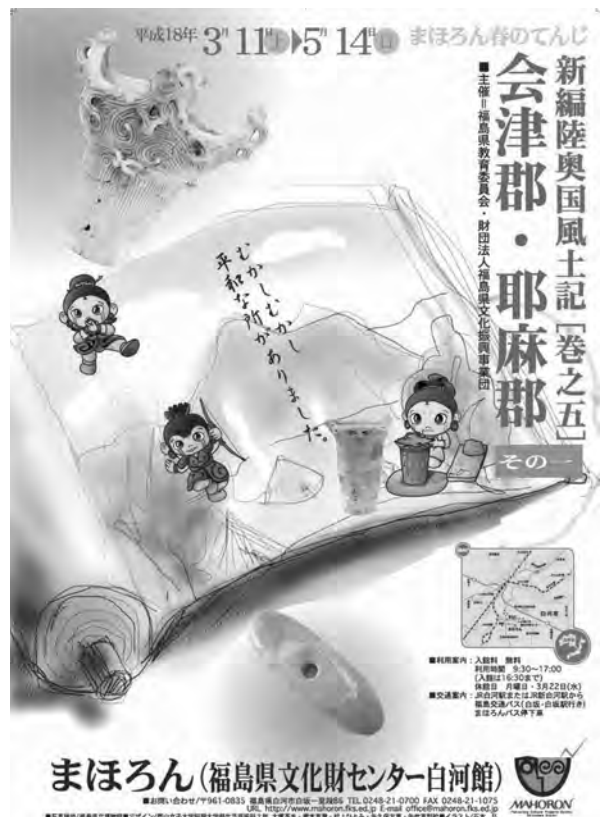


コーナー①人と物が集うムラ

なお、具体的なコーナー構成は、以下のとおりである。

- ①人と物が集うムラ…法正尻遺跡
- ②人々が宿る岩陰…塩喰岩陰遺跡
- ③まほろばの弥生文化…一ノ堰B遺跡
・能登遺跡・屋敷遺跡
- ④変りゆく時代(エピローグ)…和泉遺跡

このうち、コーナー①及び③については、会津地域の縄文時代と弥生時代の特徴を、共通テーマに即して紹介する内容となっている。これに対して、コーナー②と④は、トピックスの内



ポスター

容となっている。②については、塩喰岩陰遺跡内での良好な層序関係を紹介したもので、各層別に出土した資料を一括紹介している。④については、和泉遺跡で出土した古墳時代の土器を少数展示し、古代国家による支配体制への変化を予感させる内容となっている。これは同時に、次年度開催の後半展示「会津郡その2」への、導入の一部も兼ねている。

なお、「法正尻ムラ復元ジオラマ」については、まほろん開館以前に福島県文化振興事業団遺跡調査部で作成したものを、再整備した上で使用した。本企画展の会期は、特に児童生徒の来館が集中する時期にあたり、「覗く」などの「臨場感のある観察」ができる資料も必要と考えた。展示室内の導線も兼ね、意図的にバリア等での区画は最低限に抑えた。

3) 成果と反省

本企画展開催期間中の入館者総数は6,436人、会期中の平均入館者数は137人である。

「法正尻ムラ復元ジオラマ」については、特に低学年の児童に、人形一点一点に至るまで注意深く観察している例が多くみられた。非常に準備に手間のかかる展示資料ではあるが、今後も先を見越して、作成しておく必要性を感じている。



法正尻ムラ復元ジオラマ

展示資料一覧

コーナー番号	遺跡名	資料名称	点数	コーナー番号	遺跡名	資料名称	点数	
1. 人と物が 集うムラ	法正尻遺跡 猪苗代町・ 磐梯町	大木式の土器（台付浅鉢）	1	3. まほろば の弥生文化	一ノ堰B遺跡 会津若松市	ヘラ	3	
		大木式の土器（深鉢）	4			錐	1	
		馬高式系の土器（深鉢）	3			アメリカ式石鏃	7	
		阿玉台式系の土器（深鉢）	1			鹿角製の針	2	
		阿玉台式系の土器（浅鉢）	1			貝製の腕輪	2	
		深鉢	2			サメの歯	1	
		浅鉢	1					
		土偶	4					
		矢じり	5					
		錐	3					
		ヘラ	7					
		携帯ナイフ	10					
		石器を剥ぎ取った残りの石	1					
		石おの（磨製石斧）	11					
		石おの（打製石斧）	1					
		網のおもり	15					
		砥石	1					
		石皿	2					
		磨石・凹石	10					
		ヒスイ製の玉（硬玉製大珠）	1					
法正尻ムラ復元ジオラマ	1							
2. 人々が宿 る岩かげ	塩喰岩陰 遺跡 西会津町	縄文早 期の土器	3	4. 変わりゆ く時代	和泉遺跡 会津若松市	壺	7	
		縄文前期の土器	2			コップ形土器	1	
		縄文中期の土器	1			鉢	1	
		縄文後期の土器	2			高坏	1	
		縄文晩期の土器	1			蓋	1	
		弥生中期の土器	3			管玉	82	
		弥生後期の土器	1			勾玉	6	
		矢じり	22			能登遺跡 会津坂下町	広口壺	2
		石おの（磨製石斧）	2			蓋	3	
		携帯ナイフ	5			独鈷石状土製品	1	
						独鈷石	1	
						屋敷遺跡 会津若松市	弥生土器（壺）	1
						壺	1	
						注口土器	1	
				蓋	1			
				北陸系の土師器	1			
				古墳時代前期の土師器	3			
				総点数 252 点				

(3) 研究復元事業

1) 研究復元の目的

研究復元事業は、遺跡から出土した遺物や、確認できた遺構を対象として、古代の技術や素材をできる限り検討し、今に甦らせるというものである。

これまでに、横穴墓から出土した種々の副葬品や、古墳出土の青銅鏡などのほか、平成14年度からは、「古代の鉄」をメインテーマとし、浜通り地方北部の製鉄遺跡から出土した鋳型から鉄製品を復元したり、砂鉄から鉄を作る古代製鉄炉の復元操業などを行っている。

平成17年度からは、「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をあらたなテーマとした。当館準備段階の平成11年度に行った白河市東にある策内37号横穴墓から出土した馬具類と、いわき市中田横穴出土資料の馬具類を復元製作して比較することにより、福島県古墳時代金工技術の地域差から、その社会的背景に迫り、さらに古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的としている。

2) 研究復元資料製作の経過

対象とした資料は、いわき市中田横穴出土の馬具類である。中田横穴は、赤・白2色で描かれた連続三角文の壁画を有する6世紀後半の横穴墓である。調査は昭和44年に行われ、その後、

横穴は国指定史跡に指定され、金銅装馬具をはじめとして弓矢・甲などの武具、銅椀などの出土品は、県指定重要文化財になっている（1971いわき市）。

出土した馬具類等は下図に示したように、石室内に散乱した状態で確認されているため、研究復元に際しては、資料の悉皆調査と、各種資料の構成状況を推測することから開始した。なお、調査に際しては、いわき市教育委員会の立ち会いの下、いわき市考古資料館で行った。

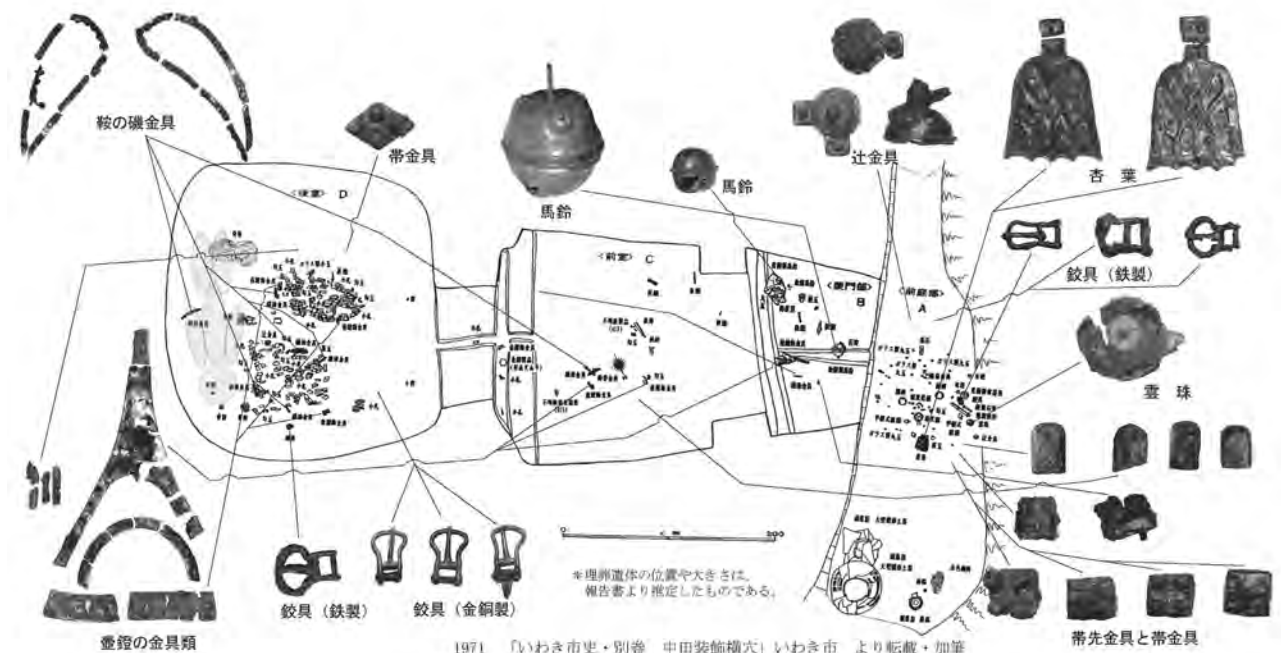
また、資料の構造や材質を推測するため、資料を借用し、福島県立博物館において資料のX線撮影を行い、さらに、福島県文化振興事業団遺跡調査部渡利分室にて、各資料の蛍光X線分析を実施した。このX線撮影や分析により、各資料の構造や材質の推測が可能となった。

復元する資料が、金銅装木製鞍（前輪・後輪・居木・革帯・鞍褥など）と、尻繫（雲珠・辻金具・杏葉・帯金具・帯先金具など）が対象であったため、他の装飾部分については、次年度以降、漸次復元する計画とした。

3) 復元した資料について

a 金銅装木製鞍

金銅装木製鞍の内、前輪・後輪・居木は木製であったためか、遺存していなかった。このため、磯金具の規模（特にその幅）から前輪と後



中田横穴出土馬具

輪を構成するものを識別し、群馬県綿貫観音山古墳出土の資料を参考にして、前輪・後輪の規模を推定した。さらに、眉形金具も出土していないため、これも木製で製作することとした。眉形金具も前述の群馬県綿貫観音山古墳出土の資料を参考とした。

居木の構造や規模については、当館保管の筑内 37 号横穴墓の復元品を参考にしつつ、福岡県福岡市元岡・桑原遺跡群出土居木（2003 福岡市）に類似させた。

鞍及び居木の樹種は、群馬県綿貫観音山古墳の出土事例に合わせ、鞍はナラ材、居木は桂材とした。また、仕上げの装飾は、生漆に松煙（松のスス）を混ぜた黒漆を、木質部表面に染みこむまで、叩きつける拭き漆法で行った。

この他、磯金具を留める鉾頭の大きさ、鉾針の長さや構造、穿孔間隔などは、出土資料に準じたが、鉾頭の規模や穿孔間隔が不規則であり、この不揃いさが中田横穴の特色の一つと思われる。ただ、鉾針の長さについては、先端部が欠損していたため、大半を推測した。磯金具に使用する鉾の数は 112 個となった。

b 尻繫

尻繫は、出土した資料の組み合わせを検討し、以下の資料と点数を復元対象品とした。

雲珠（1 点）・辻金具（12 点）・杏葉（6 点）・帯金具（6 点）・帯先金具（11 点）

このうち、帯金具は地板：銀メッキ・鉾頭：金メッキのものを選択し、帯先金具は地板：銀メッキ・鉾頭：銀メッキの資料とした。これらの帯金具や帯先金具も、前述の磯金具同様、そ



馬の模型に装着した金銅装鞍と尻繫

の幅や鉾頭の規模が不揃いであり、尻繫の構成を推測する上で大いに頭を悩ませた。

4) まとめ

以上の検討や作業を通し、完成した復元鞍と尻繫を下に示した。今回の研究復元を通し、筑内 37 号横穴墓から出土した馬具の製作技術とは明らかに異なる製作技術が、中田横穴出土馬具には認められた。それは、“不揃いさ”に集約されるが、完成された鞍や尻繫を見ると、この不揃いさが気にならなくなる。「金色の魔力」とも言える製作して初めて解ることであった。

筑内 37 号横穴墓の復元過程の中で 6 世紀末に作られたこの資料の背景に、聖徳太子の周囲で活躍した鞍作止利の流れをくむ技術集団が介在している可能性が指摘された。この点を更に究明していくには、中田横穴の馬具の徹底した研究が必要であり、そこに用いられた金属加工技術や製作技術を解明し、筑内資料との比較研究を行っていくことが必須と思われる。

<参考文献>

- 1971 「いわき市史・別巻 中田装飾横穴」いわき市
- 2003 「九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報 2－元岡・桑原遺跡群発掘調査－」福岡市教育委員会



完成した金銅装鞍と尻繫

8 ボランティア運営事業

(1) 登録

1) まほろんボランティア

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』といい、登録形態によって「個人登録ボランティア」と「団体登録ボランティア」とに分かれる。団体登録ボランティアは、昨年度から引き続き『しらかわ語りの会』（13名）の登録があり、いくつかの館活動にご協力いただいた。

一方、個人登録ボランティアの登録内容は別表のとおりである。登録希望者は規定の研修修了後、既存の登録者は更新手続き後、4月1日付けで登録が行われる。なお、特に断りがない場合、以下に挙げるボランティア活動の記述は、個人登録ボランティアに関連してのものである。

まほろんボランティア登録状況

平成17年度登録者数	45名
平成17年度登録最年少年齢	19歳
平成17年度登録最年長年齢	78歳
平成17年度登録者平均年齢	56歳
平成17年度新規登録希望者数	3名

2) まほろんサポーターMets（メッツ）
まほろんサポーターMets（メッツ）の活動内容は、まほろんボランティアの活動が館の運営方針に則った自主的なものであるのに対し、職員やまほろんボランティアの指示によるものとなる。登録内容は別表のとおりである。



Mets（メッツ）の活動表彰のようす

まほろんサポーター Mets 登録状況

平成17年度登録者数	12名
平成17年度登録最年少年齢	13歳
平成17年度登録最年長年齢	27歳
平成17年度新規登録者平均年齢	16歳

(2) 活動内容

1) 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習（実技講座・団体等）の支援
- イベント（鉄づくり等）の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理



イベント「餅つき大会」での配膳のようす

2) 自主活動グループとしての活動

上記の活動の他に、いくつかの自主活動グループが形成され、グループごとに企画・運営・自主研修が行われている。自主活動グループは以下のとおりである。

- まほろんオリエンテーリング
- 植物案内ツアー
- 見どころ案内ツアー
- 土器づくりグループ
- アンギン編みグループ
- 収蔵資料の修復・復元グループ
- イベントグループ

3) まほろんボランティアの会の運営

今年度より、個人登録ボランティアによって構成される『まほろんボランティアの会』を発足し、文化財の愛護と普及、会員の資質向上と相互交流を目的に自主的な組織による運営が行われている。

(3) 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、ボランティア3原則のもと、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、教育普及課に正・副2名、研修課・総務管理課に各1名のボランティア担当者を配置し、ボランティアのニーズに対応する。教育普及課の担当者が窓口となり、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。

(4) ボランティア研修

1) 一般研修

一般研修とは、登録希望者に対して事前に登録後の活動の基礎となる知識や技術習得を目的とした研修である。10月から3月にかけて全7回13単位の研修項目で実施した。

2) 館外研修

館外研修は、ボランティア活動の発展を目的として、年に1回、類似施設や他の機関のボランティア活動などの視察研修である。今年度は「アクアマリンふくしま」を訪問し、県内の同じ施設ボランティアが取り組む諸活動とボランティアの会の運営についての見学を実施した。

(5) ボランティア主催イベント

1) 「まほろん4周年だよ！ボランティア2005」



館外研修「アクアマリンふくしま」にて

開催日時：平成17年7月18日（月）

9:30～15:00

2) 「ねえねえ来て見てボラ展」

開催期間：平成17年7月18日（月）

～8月28日（日）

3) 「天平の横笛、コンサート」

開催日時：平成18年3月19日（日）

12:00～14:00

<参考資料>

福島県文化財センター白河館ボランティア登録要項

(目的)

第1条 この要項は、福島県文化財センター白河館におけるボランティア（以下「ボランティア」という。）の登録に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(名称)

第2条 ボランティアの名称を「まほろんボランティア」とする。

(申し込み資格)

第3条 ボランティアの申し込み資格は、満15歳以上（中学生を除く。）の健康で無償の活動が可能な者及びそれらの者によって組織された団体とする。

(ボランティアの形態)

第4条 ボランティアは、「個人登録ボランティア」及び「団体登録ボランティア」で構成する。

2 「個人登録ボランティア」は、「ボランティアの会」に入会し、本館で設定した活動内容及び都合のよい日時を、月ごとにボランティア個々人が選択の上、個人として活動する。

3 「団体登録ボランティア」は、各団体が本館との協議により設定した活動内容・活動日時に沿って、保有する特技・特性を生かし、組織として活動する。

(申し込み方法)

第5条 「個人登録ボランティア」を希望する者は、登録希望前年度の9月1日から9月30日までに「登録前オリエンテーション参加申込書」（様式1）を福島県文化財センター白河館長（以下「館長」という。）に提出するものとする。

2 「団体登録ボランティア」を希望する団体は、期間・方法を定めず、登録を希望する旨を館長に申し出るものとする。

(登録前オリエンテーション)

第6条 「個人登録ボランティア」を希望する者は、館長が登録前年度の10月に実施する登録前オリエンテーションを受けるものとする。

(登録前面談)

第7条 館長は、登録前オリエンテーションを受けた者を対象に登録前年度の10月に登録前面談を実施し、登録の意思確認及び活動内容に対する希望等を聴取する。

2 館長は、「団体登録ボランティア」の申し込みがあった場合には団体の代表者と登録前面談を実施し、登録の意思確認及び活動内容・活動日程に対する希望等を聴取する。

(正式登録申込み)

第8条 登録前面談を受けた者のうち「個人登録ボランティア」の正式登録を希望する者は、「まほろんボランティア個人登録申込書」(様式2)を登録前年度の10月31日までに館長に提出するものとする。

2 登録前面談を受けた団体のうち「団体登録ボランティア」の正式登録を希望する団体の代表者は、「まほろんボランティア団体登録申込書」(様式3)を速やかに館長に提出するものとする。

(登録)

第9条 館長は、「まほろんボランティア個人登録申込書」を提出し、登録前年度の10月～3月に実施する一般研修を受講した者の中から、ボランティアとして適当と認めた者を登録する。

2 「まほろんボランティア団体登録申込書」を提出した団体の中から、館長がボランティアとして適当と認めた団体を登録する。

3 「個人登録ボランティア」には個人登録証(様式4)を発行する。

4 「団体登録ボランティア」には団体登録証(様式5)及び団体所属者用登録証(様式6)を発行する。

5 「個人登録ボランティア」の登録日は、登録年度の4月1日とし、この日からボランティアとして活動ができるものとする。

6 「団体登録ボランティア」の登録日は、提出された「まほろんボランティア団体登録申込書」を受理した日とし、この日からボランティアとして活動ができるものとする。

(登録期間)

第10条 登録の有効期間は1年間とする。ただし、年度を越えることはできない。

(個人登録の更新)

第11条 登録期間終了後も希望する者は、登録を更新することができる。

2 登録更新を希望する者は、更新登録前年度の3月

1日までに「まほろんボランティア個人登録更新申込書」(様式7)を提出するものとする。

3 館長は、登録更新申込書を提出した者の中からボランティアとして適当と認めた者の登録を更新する。

4 登録更新の場合は、登録前オリエンテーション及び一般研修を免除する。

(団体登録の更新)

第12条 登録期間終了後も希望する団体は、登録を更新することができる。

2 登録更新を希望する団体は、更新登録前年度の3月1日までに「まほろんボランティア団体登録更新申込書」(様式8)を提出するものとする。

3 館長は、登録更新申込書を提出した団体の中からボランティアとして適当と認めた団体の登録を更新する。

(登録の取り消し)

第13条 館長は次のような場合、登録期間中であっても登録を取り消すことができる。

(1) 本人及び登録団体の代表者から登録の取り消しの申し出があった場合

(2) ボランティアとしてふさわしくない言動があった場合

(3) 活動時間が年間1時間以下及び活動予定表の提出が年1回もなかった場合

(4) 政治活動や宗教活動等の場として福島県文化財センター白河館を利用した場合

(登録証の返納)

第14条 ボランティアは、登録期間中に活動を行うことができなくなった場合及び登録期間が満了した場合、速やかに登録証を返納するものとする。

(その他)

第15条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は館長が別に定めるものとする。

附則

1 この要項は、平成13年4月1日より施行する。

2 平成13年度における登録は、第4条、第5条及び第6条の規定を適用しない。

附則

この要項は、平成13年11月30日より施行する。

附則

この要項は、平成14年4月23日より施行する。

附則

この要項は、平成15年2月8日より施行する。

附則

この要項は、平成17年2月25日より施行する。

第4章 平成17年度入館者統計

1 入館者数

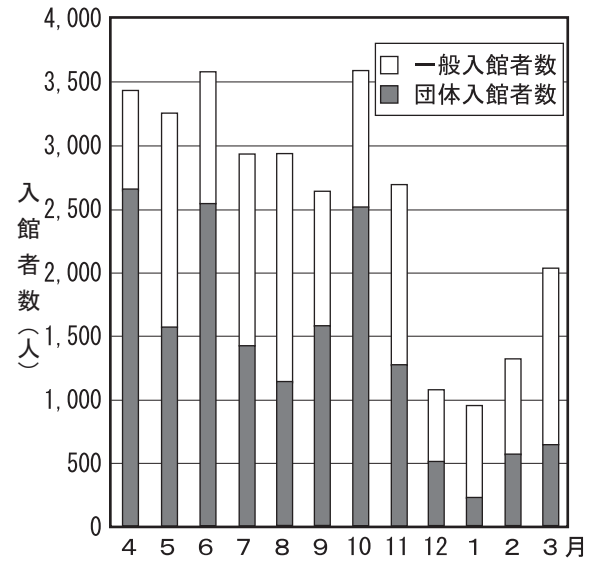
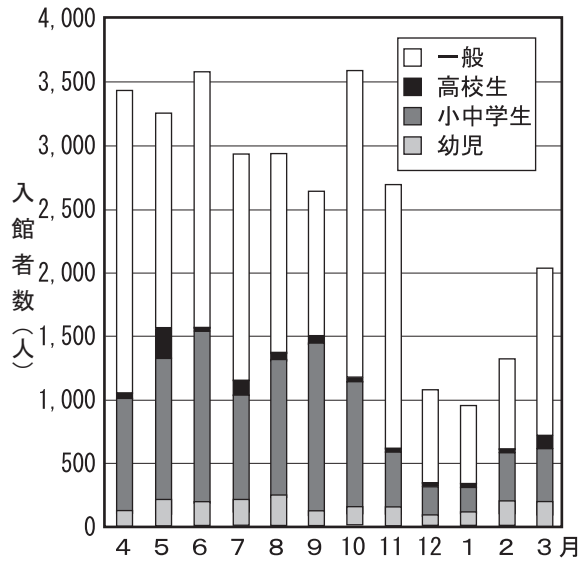
月別入館者数

	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一般入館者	合計	月別構成比	日平均
4月	26	111	908	19	2,395	3,433	11.28	132
5月	25	204	1,133	220	1,696	3,253	10.68	130
6月	26	184	1,361	13	2,023	3,581	11.76	138
7月	27	206	840	103	1,780	2,929	9.62	108
8月	26	241	1,083	41	1,570	2,935	9.67	113
9月	26	121	1,333	39	1,147	2,640	8.67	102
10月	26	149	1,006	17	2,422	3,594	11.80	138
11月	24	146	445	12	2,097	2,700	8.87	113
12月	23	89	234	12	745	1,080	3.55	47
1月	23	111	209	9	621	950	3.12	41
2月	24	201	392	11	715	1,319	4.33	55
3月	26	198	432	83	1,319	2,032	6.67	78
合計	302日	1,961人	9,376人	579人	18,530人	30,446人	100%	101人

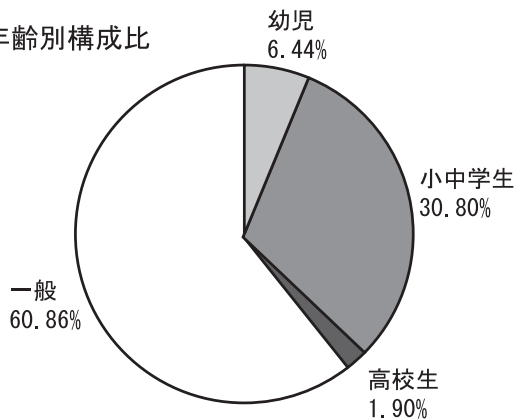
団体利用状況

団 体		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	4
		入館者数	0	40	215	30	0	0	0	0	0	40	0	325
	小学校	学校数	9	14	16	5	0	17	10	3	3	0	4	85
		入館者数	912	720	902	205	0	1,051	677	55	118	0	254	5,003
	中学校	学校数	4	0	1	2	3	0	1	0	0	1	0	12
		入館者数	163	0	65	87	159	0	51	0	0	91	0	616
	高等学校	学校数	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5
		入館者数	0	208	0	33	0	26	0	0	0	0	41	308
	養護学校	学校数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
		入館者数	0	0	0	14	0	13	0	0	0	0	0	27
	大 学	学校数	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4
		入館者数	0	12	0	74	0	35	0	37	0	0	0	158
	小中高PTA (保護者のみ)	学校数	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	0	6
		入館者数	0	0	4	18	35	0	0	14	0	16	0	87
生涯学習関係	小中高PTA (親子レク等)	学校数	0	0	3	1	0	1	0	2	0	1	0	8
		入館者数	0	0	216	28	0	51	0	86	0	23	0	404
	研究会	会数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
		入館者数	0	0	0	60	0	0	28	0	0	0	0	88
	子ども会	会数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
		入館者数	0	0	32	124	0	0	0	0	0	0	0	156
社会福祉関係	公民館等	館数	0	2	3	4	6	3	7	7	0	2	0	34
		入館者数	0	59	88	208	165	98	225	224	0	32	0	1,099
	福祉施設 デイケアサービス	団体数	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5
		入館者数	0	8	23	50	0	0	0	0	0	0	44	125
文化団体関係	資料館等	館数	0	0	0	1	0	3	2	1	1	0	3	11
		入館者数	0	0	0	25	0	49	62	4	14	0	13	167
	歴史研究	団体数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4
		入館者数	0	0	0	21	0	0	13	0	0	0	51	85
行政機関関係	県・市町村 教委・審議会等	団体数	0	1	3	0	3	2	4	2	0	0	2	17
		入館者数	0	26	112	0	165	17	127	24	0	0	15	486
その他	その他	団体数	31	22	38	23	29	16	58	32	21	6	9	304
		入館者数	1,594	519	897	475	633	262	1,343	851	406	156	250	7,779
合計	団体数	44	43	68	46	43	45	84	49	25	8	17	34	506
	団体入館者数	2,669	1,592	2,554	1,452	1,157	1,602	2,526	1,295	538	263	599	666	16,913
総入館者数		3,433	3,253	3,581	2,929	2,935	2,640	3,594	2,700	1,080	950	1,319	2,032	30,446
団体利用者の割合		77.75%	48.94%	71.32%	49.57%	39.42%	60.68%	70.28%	47.96%	49.81%	27.68%	45.41%	32.78%	55.55%

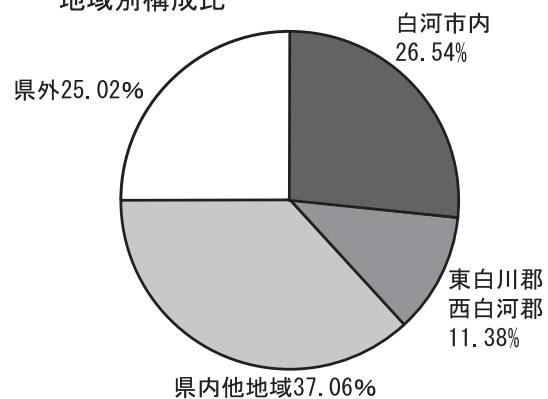
月別入館者構成比率



年齢別構成比

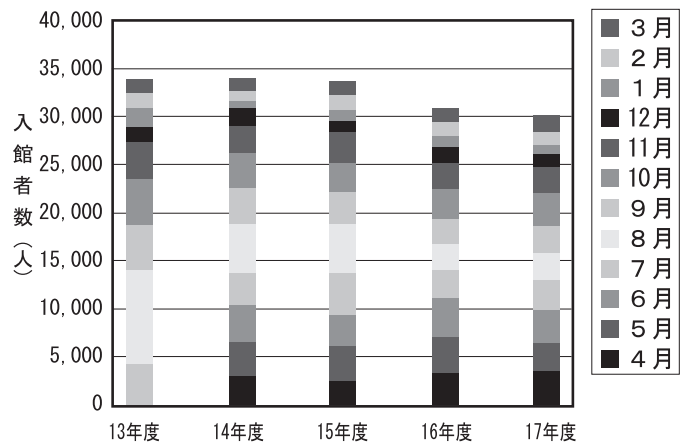


地域別構成比



2 入館者数の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
4月		2,856	2,426	3,256	3,433
5月		3,967	3,926	4,129	3,253
6月		3,773	3,330	3,939	3,581
7月	4,334	3,455	4,330	2,846	2,929
8月	9,932	5,045	5,147	2,900	2,935
9月	4,613	3,729	3,150	2,450	2,640
10月	4,755	3,661	3,104	3,223	3,594
11月	3,933	2,867	3,274	2,717	2,700
12月	1,424	1,630	1,128	1,647	1,080
1月	1,742	702	867	861	950
2月	1,613	1,050	1,670	1,492	1,319
3月	1,921	1,712	1,716	1,628	2,032
	34,267人	34,447人	34,068人	31,088人	30,446人



第5章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地

設置者：福島県

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

開館：平成13年7月15日

○建 築

設計：株式会社佐藤総合計画

工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画

施工

建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体

機械設備工事：山田設備工業株式会社

電気設備工事：福島電設株式会社

○展 示

設計監理：日精株式会社

屋内展示製作：株式会社乃村工藝社

屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積：51,827.51㎡

建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡

体験学習館 133.627㎡

延床面積：体館棟 2,400.046㎡

収蔵庫棟 2,999.769㎡

計 5,399.815㎡

体験学習館 92.71㎡

構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造

規模：地上1階（最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高4m）

駐車台数：一般駐車場91台（身障者用4台）・大型車駐車場

10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台

地域地区：都市計画区域内・無指定

主な外部仕上げ

(本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック（環境整備工事）

(収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具

(体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上フッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル

(事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード

(特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニル

エナメル、天井：岩綿吸音板

(講堂)床：フローリング、壁：腰壁／グラスウール吸音材＋集成材染色塗装、上壁／岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板

(研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音

(収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木繊維セメント板・セメント成型板、天井：木繊維セメント板

(体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備：受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA、非常証明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置、放送設備：非常放送と兼用・出力240W、電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備、電話設備：電子交換外線4回線（ISDN）内線55回線、監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停、制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ＩＴＶ設備：ＩＴＶを必要箇所を設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤P型1級19回線（自火報）4回線（防排煙設備）、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備：消火／屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式：排煙／自然排煙

放火扉設備：5回線、雷警報設備：襲雷警報器（コロナーム）、避雷針設備

◎空調設備

空調方式：一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式（一部空冷HP）＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト（空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット）方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト（ガスエンジンHPP）方式、熱源：都市ガス（ガス種別：プロパン）

◎衛生設備

給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流（最終樹でポンプアップ）方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流

多目的便所：屋内1箇所（男女別）、屋外1箇所（男女別）、トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター2基

一般収蔵庫（油圧式 最大積載量1,000kg）

搬入口（油圧式 最大積載量1,000kg）

工期 着工 平成11年 7月12日

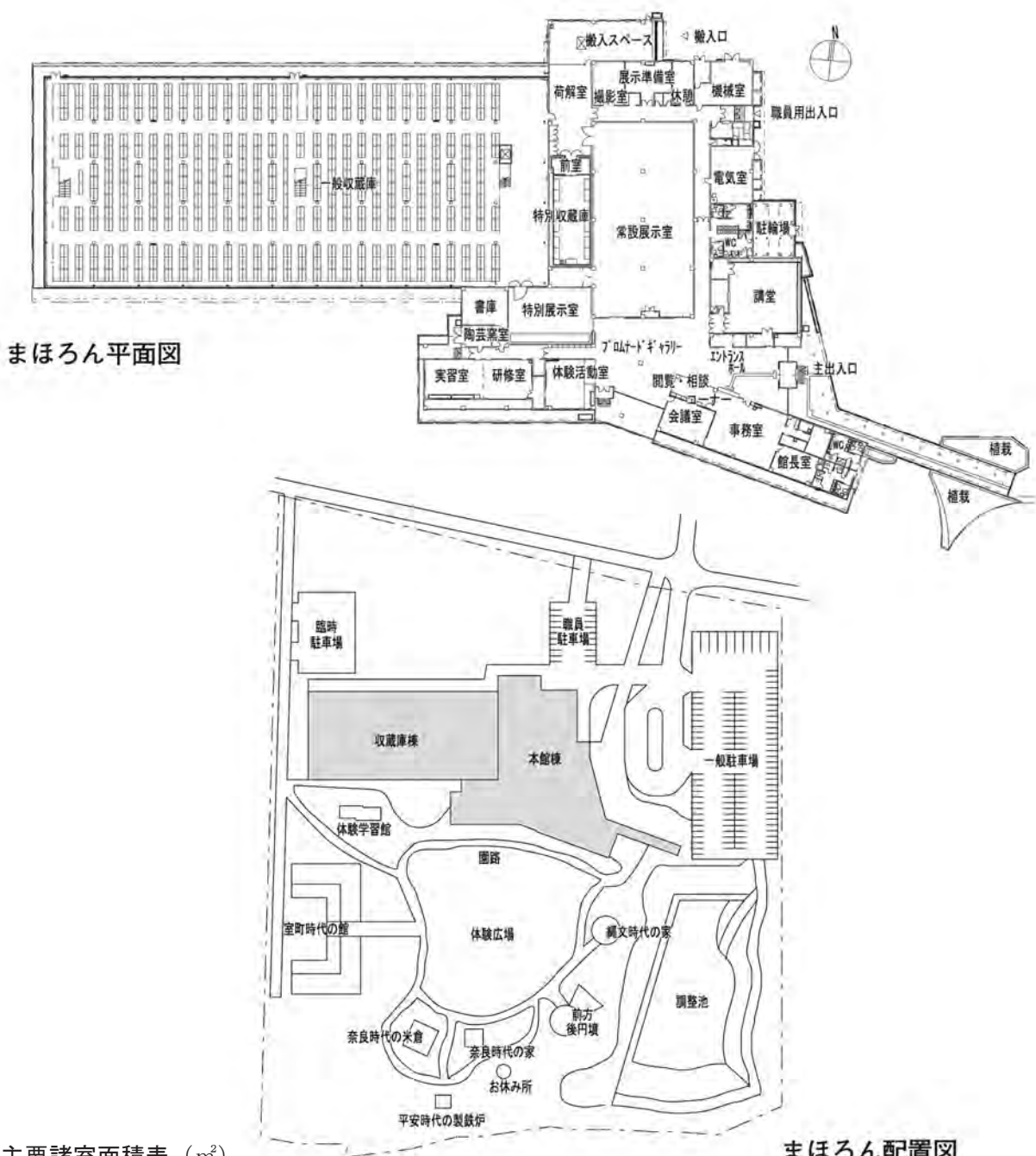
完成 平成12年10月16日

建築事業費 2,690,848千円

公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合計 3,300,625千円



主要諸室面積表 (㎡)			まほろん配置図		
室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚 2 層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第6章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 白河館は、白河市白坂字一里段86番地に置く。

(業務)

第3条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- (2) 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- (3) 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- (4) 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (5) 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- (6) 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(遵守事項)

第4条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (3) 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (4) 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。
- (5) 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- (1) 前条の規定に違反した者
- (2) 白河館内の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- (3) 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(使用料の不徴収)

第6条 白河館の使用料は、徴収しない。

(管理の委託)

第7条 教育委員会は、白河館の設置の目的を効果的に達成するため、民法(明治29年法律第89号)第34条に規定する法人であつて知事が指定するものに対し、その管理を委託することができる。

2 前項の規定による管理の委託は、同項の知事が指定する法人と教育委員会との協議により、次に掲げる事項を定めて

行うものとする。

- (1) 委託する施設の名称、位置、構造及び規模
- (2) 委託の年月日
- (3) 管理の方法
- (4) 委託の条件
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委託に関し必要な事項(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第1条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- (2) 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 白河館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(文化財等の特別利用)

第3条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例(平成13年福島県条例第43号)の施行の日から施行する。

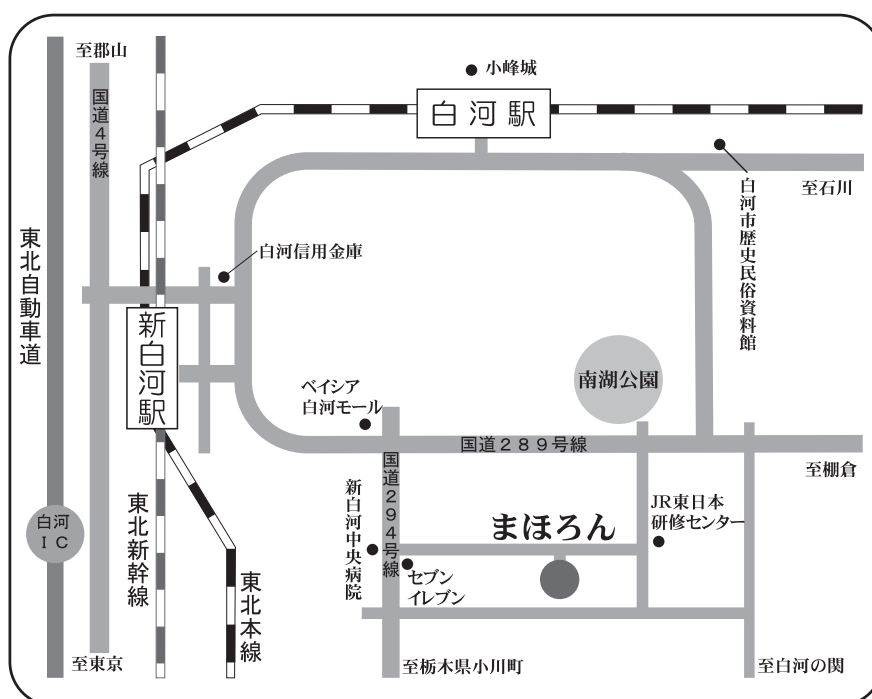
まほろんの利用案内

- 開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- 休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、平成 18 年度からは夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）
- 入 館 料 ・ 無料
- 交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新

幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂、白坂駅行き）まほろんバス停下車

- ・ J R バス（棚倉行き）南湖公園下車 25 分
- ・ 東北自動車道白河 I . C から車で 20 分

そ の 他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いす・ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2006

平成 19 年 1 月 31 日発行

編集 (財) 福島県文化振興事業団
発行 福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
印刷 株式会社大盛堂印刷所

表紙デザイン 久家三夫



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館

